あたたか すこやか　みんなで活かし
みんなを活かす　みんなのクラブ

茨城県老人クラブ実態調査結果分析･研究事業報告･提言書

平成 21 年 3 月

いきいきクラブ茨城

財団法人 茨城県老人クラブ連合会

発行にあたって

本報告・提言は、財団法人　茨城県老人クラブ連合会が平成１９年度に実施した老人クラブ実態調査アンケートの結果と、県内各地の１０クラブを訪問し、直接、さまざまなことを話し合い、すばらしい感動、楽しい話、苦労の話などを伺った結果から、今後の各クラブの活動にあたって、参考にしていただけることをできる限り具体的に抽出して、取りまとめたものです。

いま、地域社会は、少しずつ、ご近所のつながりを失い、地域文化や伝統を失い、地域社会の「支え手」が減少し、地域社会の崩壊を起こし始めているのではないかとも思われます。

安全安心を確保し、地域の環境を美化し、老々世帯や独居老人を見守り、地域文化や伝統を継承していくことができる有力な地域の組織は、老人クラブをおいてあるでしょうか。また、高齢者自身が、生きがいを持ち、元気であることが、地域社会を明るくし、地域の負担を軽くしていることは言うまでもありません。

このような状況を知っていただき、地域社会に、老人クラブの役割を認め、老人クラブの必要性に目覚めていただくことが是非に必要だと思います。老人クラブが充実し、活発な地域は、元気で、安全で、住みよい街になることは間違いないのです。今後の老人クラブの活動内容によって、高齢者は地域社会の大きな財産ともなり、また、負の財産ともなります。

この報告・提言は、アンケート調査やクラブ訪問の結果などから、地域社会から高い評価を受けるとともに、生きがいや健康を増進させているさまざまな老人クラブ活動の考え方や手法を参考に、地域の重要な財産として、明るく、楽しく、希望のある老人クラブになることを目指していただくことを願って作成いたしました。本報告・提言が少しでも皆様のクラブ運営の役に立てれば幸いです。

おわりに、本報告・提言の作成に当たって、ご指導ご支援いただきました茨城大学長谷川先生、常陽地域研究センター木村事務局長様、県長寿福祉課様、ご協力いただきました老人クラブの会員や事務局の方々、県老連役員、そのほか多くの皆様に心からの感謝と御礼を申し上げます。

平成２１年３月

財団法人　　茨城県老人クラブ連合会
会　　長　　小　　峯　　光

目　　次

発行にあたって
１　はじめに：本報告書の課題 ･･･ 1
（1）平成19年度アンケート調査の意味とその具体化 ･････････････････････ 1
（2）10クラブからの聞き取り調査による事例検討 ･････････････････････ 1
（3）21世紀老人クラブの必要性と可能性を検討する ･････････････････････ 2
２　老人クラブ加入率が高い市町村ほど高齢者医療介護費用は少ないのでは！
･･･ 3
３　アンケート調査の概要 ･･･ 5
４「モデルクラブ10」の聞き取り調査をするにあたって ･････････････････ 16
５「モデルクラブ 10」聞き取り調査結果表 ･････････････････････････････ 18
６　いきいきクラブ茨城：２１世紀への提言 ･････････････････････････････ 19
（1）提言Ａ：老人クラブ活動課題解決への心構 ･････････････････････････ 20
（2）提言Ｂ：老人クラブは７つの社会的役割を担う ･････････････････････ 21
その①　老人クラブは、健康づくりや介護予防を実行している最前線の団体 ･･･ 21
その②　老人クラブは、生きがいづくりや親睦・人的交流を促進する、普段着の団体である ･････････････････････････････････････ 21
その③　老人クラブは、文化や伝統を継承していく重要な目的別団体である ･･･ 21
その④　老人クラブは、地域･ふるさとづくりを推進する地域団体である ･･･ 22
その⑤　老人クラブは、安全･安心を守り、育む防犯防災団体である ･････ 22
その⑥　老人クラブは、環境･美化活動団体である ･････････････････････ 23
その⑦　老人クラブは高齢者の［新しい生き方・暮らし方］を創造する団体である ･･･ 23
（3）提言Ｃ：老人クラブ活動への具体的提言 ･････････････････････････ 24
①クラブの組織について ･･･ 24
②活動の充実のために ･･ 25
③クラブの財政、行政との関係について ･･････････････････････････････ 27
７　アンケート調査　「自由意見」の概要 ･････････････････････････････ 29
８　おわりに ･･･ 32

資料１　単位クラブのヒアリング概要 ･････････････････････････････････ 36
資料２　19年度アンケート調査「自由意見」の概要 ･････････････････････ 56

１　はじめに：本報告書の課題

この報告書の課題は３つです １　平成 19 年度アンケート調査の意味とその具体化 ２　モデルクラブ１０からの聞き取りによる事例の検討 ３　クラブの必要性と可能性の検討

(1)平成 19 年度アンケート調査の意味とその具体化

〈経過と意味〉

全老連が平成１８年度に行った「解散クラブ調査」において、①単位クラブが解散を決める前に市町村老連に相談できていないこと、②市町村老連も解散を決めるまでクラブの実態を把握していないこと、③解散したクラブは活動内容が貧弱であるところが多いこと、④会員数の多少は直接的な理由ではないようであること、⑤会長の後継者がいないこと、などの理由が挙げられている。

今回の平成 19 年度実態調査の結果からは、加入者の減少や、運営上の問題など多くの課題が出てきている。

そこで、実態調査から見えてきた課題に対応するため、また、解散クラブにならないよう、事前にクラブの実態を把握することが必要であること。実態に合ったクラブの活性化方策等が必要であること。などからクラブの実態を把握しようとしたものである。（単位クラブ活動実態調査事業概要（案）Ｈ１９.７.２７　他による。）

〈具体化のために〉

実態調査を分析・研究し、その成果を生かして、活動の活性化、ならびに、組織の強化を図ることを目的に、訪問調査を実施し、具体的に利用しやすい報告・提言を作成する。

(2)10 クラブからの聞き取り調査による事例検討

平成１９年度茨城県老人クラブ実態調査結果を踏まえ、この結果を活用し、生かしていくとともに、元気で、楽しく、大勢の会員を得、地域から信頼され頼られる老人クラブを目指すため、実態調査結果から、本県老人クラブの特徴や、他の手本となる点などを見つけるとともに、課題を整理し、また、あわせて、アンケート「自由記載欄」の活用も図った報告・提言を行うこととした。

そのため、クラブの実態を、直に、より詳しく知る必要があり、訪問して、

直接クラブの皆様から話を伺い、整理し、取り纏めをして提言・報告書の作成にあたることにした。

(3)21 世紀老人クラブの必要性と可能性を検討する

(老人クラブ加入率と高齢者の医療介護費との関係)

人口の高齢化や核家族化、地域や家族などに対する考え方の変化など地域社会は大きく変貌してきている。このような中で、老人クラブは、「自らの生活を豊かにする楽しい活動」を中心としたクラブから、高齢者の持っている知識・経験を生かした「地域を豊かにする社会活動」や、「福祉社会形成の担い手」としての活動にも積極的に取り組むことを目指しており（２１世紀プラン)、地域社会における果たすべき役割とその可能性について検討することとした。

また、老人クラブ加入率の高い地域にあっては、医療介護費が少ない傾向があり、老人クラブ活動は、医療費や介護費の抑制に大きく貢献していると推測できる。健康づくりや介護予防活動の意味について、検討を行った。

老人クラブは、地域に密着した組織であり、地域を熟知しており、多種・多様な経験・経歴を持ち、豊富な知識・技術を持った高齢者の集団である。「自らの生活を豊かにする楽しい活動」により、健康・生きがいを保ち、その能力を発揮することができれば、「地域を豊かにする社会活動」や、「福祉社会形成の担い手」として、地域に不可欠な組織として、大きな活躍が期待できる。

≪ちょっと一言≫

Ａ：「解散クラブ調査」（平成 18 年度）から続いた茨城県老人クラブ調査のまとめがこの報告書ってわけだ。

Ｂ：そう、「実態調査」（平成 19 年度)、「10 クラブ聞き取り調査」（平成 20 年度）の結果を整理して、これからのクラブ活動に役立てようってこと。

Ａ：でもなあ、調査結果をどう活かすかが大事なんだよな。

Ｂ：だからさ、この報告書では、これからのクラブ活動にすぐ役立つよう、ヒントや提案も書いてあるみたいよ。

Ｃ：じゃあ、うちのクラブに合わせて読んでみっぺか。

２　老人クラブ加入率が高い市町村ほど高齢者医療介護費用は少ないのでは！

老人クラブ加入率が高いと高齢者医療介護費は下がる
～今回の分析結果より～

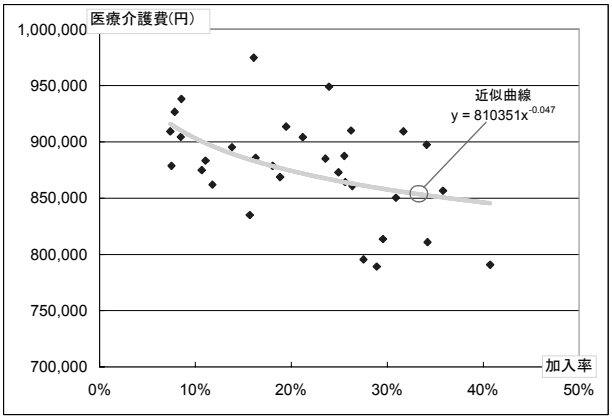
老人クラブの加入率が高いところほど、高齢者医療介護費の少ないことが下記図表から見てとることもできる。

今回の調査では、平成 18 年度のデータをもとに標記 2 指標の相関を探ってみた。県内 32 都市(市部だけの分析)についてみると、図に示すように老人クラブ加入率と高齢者医療介護費には中程度の(マイナスの)相関関係が認められている。つまり老人クラブ活動が活発になれば、医療費が下がる傾向が「ある程度」認められると言うことだ。

高齢者医療費に関しては他にも様々な分析結果が紹介されているのだが、似た調査としては「高齢者就業率」が高い県は老人医療費が低いとの指摘が複数なされている(長野県などがこの例。この対極に位置しているのが沖縄県など)。つまり高齢者の社会参加や就業が結果的に医療費を押し下げるのだ。今回調査している「老人クラブの活動」が、社会参加という意味で就労と同じ働きをしていると考えることも可能である。

ただし、確たる結論を導き出すためには、さらに多面的な検討も求められる。たとえば他にも「検診受診率」、「在宅等の死亡率」などの関係がたびたび指摘されるし、逆に今回の都市をよく見ていくと、医療費の高い地域は県南の諸都市、工業都市であることから、比較的医療機会に恵まれた地域、高度な医療(つまりお金がかかる医療)を利用しやすい環境がある地域と見ることも可能である。本県において、標記の課題に関わる十分なデータ解析と実態調査が行われた事例は多くないと思うが、代表的な 2 つの指標について(逆)相関が認められたという今回の分析結果に注目したい。

平成18年度における老人クラブ加入率と高齢者の医療介護費との関係
（市部のみ）



老人クラブ加入率と医療介護関係費を示すデータ

市名	老人クラブ会員数	60歳以上人口	老人クラブ加入率	加入率順位	一人当たり医療介護費	費用順位
A	5,895	14,469	40.7%	1	790,677	2
B	5,519	15,405	35.8%	2	856,476	8
C	5,417	15,838	34.2%	3	810,757	4
D	3,000	8,792	34.1%	4	897,243	22
E	5,786	18,252	31.7%	5	909,016	26
F	4,405	14,244	30.9%	6	850,129	7
G	4,681	15,839	29.6%	7	813,477	5
H	3,656	12,648	28.9%	8	789,054	1
I	6,352	23,074	27.5%	9	795,327	3
J	5,253	19,923	26.4%	10	860,601	9
K	5,106	19,464	26.2%	11	909,750	27
L	9,463	36,918	25.6%	12	864,071	11
M	3,690	14,450	25.5%	13	887,227	20
N	4,331	17,373	24.9%	14	872,708	13
O	9,693	40,499	23.9%	15	948,805	31
P	7,412	31,450	23.6%	16	885,014	18
Q	2,552	12,028	21.2%	17	903,961	23
R	3,559	18,281	19.5%	18	913,278	28
S	2,817	14,948	18.8%	19	868,496	12
T	4,411	24,399	18.1%	20	878,584	16
U	6,256	38,403	16.3%	21	885,605	19
V	2,386	14,815	16.1%	22	974,542	32
W	1,900	12,114	15.7%	23	834,784	6
X	2,196	15,895	13.8%	24	895,072	21
Y	8,107	68,726	11.8%	25	861,856	10
Z	1,278	11,538	11.1%	26	883,082	17
α	4,043	37,835	10.7%	27	874,763	14
β	1,669	19,510	8.6%	28	937,881	30
γ	2,766	32,595	8.5%	29	904,068	24
δ	770	9,798	7.9%	30	926,334	29
ε	4,372	58,122	7.5%	31	878,527	15
ζ	796	10,767	7.4%	32	908,990	25

※「1 人あたり医療介護費」：平成 18 年度 1 人あたり老人医療費（費用額）（※1）と同年度 1 人あたり介護費（※2）の和

（※1）出典：茨城県「平成 18 年度老人医療概況」（平成 20 年 3 月）

（※2）提供：茨城県保健福祉部長寿福祉課介護保険室

《ちょっと一言》

Ａ：えっ、クラブの加入率が高いほど医療費がかかってないんだって？

Ｂ：ええ、はっきりとは言えないんだけど、市町村単位で見るとそういう結果が出るんだって。

Ｃ：じゃあ、クラブの活動は医療費削減につながっているってことだっぺよ。もっと役場にちゃんと話さなきゃな。

Ａ：なんで？

Ｃ：だって、ちゃんと老人クラブへ助成してくれれば医療費が下がるんだから。

３ アンケート調査の概要

アンケート調査の概要を以下の順で説明します。
（１）実態調査について
（２）クラブの概要（調査結果の概要　Ⅰ）
（３）クラブの活動状況について（調査結果の概要　Ⅱ）
（４）会員の参加状況（調査結果の概要　Ⅲ）
（５）他団体との連携や協力関係について（調査結果の概要　Ⅳ）
（６）財政について（調査結果の概要　Ⅴ）
（７）自由回答から判断できる各クラブの課題と可能性

昨年度、16 年ぶりに、県内老人クラブの実態調査を単位クラブの協力を得て行った。ここではその調査結果を取りまとめた「茨城県における老人クラブ実態調査報告書」の概要を改めて紹介する。本章の説明は以下のように要約できる。

実態調査には 1,536 クラブ(52.9%)が回答。クラブは県北、県西地域などに比較的多く組織され、会員 50 人規模が最多。活動面では、環境美化活動への取り組みが圧倒的に多く、一方安心・安全活動実施率はさほど多くない。健康増進活動ではスポーツ・レクが中心。また会員相互の友愛活動実施率はそれほどではない。クラブ組織について後継者難を最大の課題として認識、組織の将来について悲観論も目立つ。また地域では、こうした活動が好まれないという社会環境の変化が指摘されつつある。地域の生活の質を劣化させかねない補助金削減には強い疑問も出ている。

(1)実態調査について

実態調査は平成 20 年 2 月に県内の全ての単位クラブ(2,906 クラブ)を対象に行われ、1,536 クラブ(52.9%)から回答を得た。

クラブの概要は・・・
① 人口増加地域では強みを出し切れない(?)「老人クラブ」
② 50 人規模が中心
③ 退会者はいないが、入会者も少ない近年の老人クラブ

(2)クラブの概要（調査結果の概要　Ⅰ）

クラブは県北、県西地域などの古くからのコミュニティが残されている地域に比較的多く組織され、会員規模は 50 人までのものが最も多い。また入会者

が少ないことに頭を痛めているのが現状だ。
クラブの概要、組織の状況に関する主な特徴点は以下のようなものであった。

①人口増加地域では強みを出し切れない(?)「老人クラブ」

回答のあったクラブの地域割合をみると、県北・県央が最も多い。地域別のクラブ状況は(厳密には設立状況を示しているとは言えないが)、県南地域が対象人口比率に比べクラブ数が少なく、県西地域が比較的多い。

	回答クラブ数	(比率)	65歳以上人口	(比率)
県北・県央地域	627	40.8%	233,888	40.6%
鹿行地域	178	11.6%	53,422	9.3%
県南地域	334	21.8%	171,951	29.8%
県西地域	379	24.7%	117,011	20.3%

(17年国勢調査による)

②50人規模が中心

会員規模は「31～50人」(38.1%)、「51～100人」(36.3%)、「30人以下」(13.6%)で、全国調査と比べると規模が小さい傾向がある。さらに、実際に活動に参加している会員数をみると、「30人以下」(37.0%)が最も多くなってしまう。

会員規模	回答数	比率(%)
30人以下	209	13.6
31～50人	585	38.1
51～100人	557	36.3
101人以上	61	4.0
不明	124	8.1
合計	1,536	100.0

参加会員数	回答数	比率(%)
30人以下	568	37.0
31～50人	479	31.2
51～100人	145	9.4
101人以上	5	0.3
不明	338	22.0
合計	1,535	100.0

③退会者はいないが、入会者も少ない近年の老人クラブ

新入会員勧誘はおしなべて難しくなりつつある。18年度における新入会員が「0-9人」というものが96.8%で大部分を占めており、10人を超す入会者があったクラブは3%程度である。一方退会・逝去退会の状況をみると(18年度)3人以下というクラブは74.0%。5人以下のクラブの総数は89.1%である。

このことから、会を拡大していくためには会員加入の促進が最も大切な点だということも言える。

クラブの活動状況は、
① 社会貢献活動～環境美化が活動の中心
② 健康増進・介護予防活動～スポーツ・レク中心だが、学習活動にも関心
③ 教養・文化・交流活動～活動の基本、交流と支えあい

(3) クラブの活動状況について（調査結果の概要　Ⅱ）

次に老人クラブの活動状況については以下のような特徴点が見られた。

①社会貢献活動～環境美化が活動の中心

「環境美化活動」は老人クラブの最も得意な活動メニューである。花壇つくりは広くコンテストの対象種目となっている。空缶拾いなどの清掃奉仕も地域の支持を得て定着。環境美化活動はほとんどのクラブが「できている」と回答している。

環境美化活動

	回答数	比率(%)
十分にできている	677	44.1
普通にやれている	353	23.0
成果が上がらない	22	1.4
該当する事業がない	51	3.3
不明	433	28.2
合計	1,536	100.0

防犯や子どもの見守り活動などといった「安心・安全活動」は、それほど高い実施率ではない。県南地域で実施率が高いという特徴が見られた。この問題は地域では比較的新しい課題。地域での役割分担、取り組めるだけの組織力の有無。様々な課題を乗り越えてクラブの活動メニューに定着させていくのは大変である。

また、地域の学校行事への参加指導などを行う事例も少なくはないが、「子育て・在宅・施設福祉などの支援活動」の実施割合は19%ほどである。

②健康増進・介護予防活動～スポーツ・レク中心だが、学習活動にも関心

会員交流に効果的で、健康増進に有効な「スポーツ」は中心的な活動メニューである。62.5%のクラブができている、としている。成果が上がらないなどの否定的な回答はごく一部にとどまっている。新しい競技種目を取り入れる努力も多く見られ、活動の活性化に役立っている。「レクリエーション」活動は組織の円滑化に大変有効であり、今回のアンケート結果を見ても

63.2%ができている、と答え有用性を裏付けている。

スポーツ

	回答数	比率(%)
十分にできている	671	43.7
普通にやれている	289	18.8
成果が上がらない	42	2.7
該当する事業がない	64	4.2
不明	470	30.6
合計	1,536	100.0

さらに、目的を「健康・保健学習」と明確にした活動について 55.1%ができている、と答えているが、成果が上がらない、とか、該当事業なしとするものも 10.4%と少なくない。テーマや領域の選定、講師やアドバイザーなどの確保など少なからぬ手間がかかる事業である事が背景にあると思われる。

③教養・文化・交流活動～活動の基本、交流と支えあい

会員相互の交流・訪問活動である友愛活動については「できている」とするものが 55.1%となっている。ただし成果が上がらない、との答は 1%に過ぎないことを考えれば、日常的なクラブ運営のなかで、事業として位置づけられてはいなくとも、実質的な交流と支え合いが実現していると見てよいだろう。

友愛活動には及ばないものの趣味活動は、できている、が 49.8%であり、高い支持を得ている。趣味や特技などがクラブの活動に加わっていく入り口となっていることが伺える。

友愛活動

	回答数	比率(%)
十分にできている	545	35.5
普通にやれている	301	19.6
成果が上がらない	21	1.4
該当する事業がない	110	7.2
不明	559	36.4
合計	1,536	100.0

地域文化活動である伝承活動については、クラブ会員側の技能や経験が豊富なことに加え、伝承の機会、場などがあることも必要である。このことからできている、とするものは 23.1%ほどあるが、該当する事業がないところが 7 割以上を占める。

「機関紙発行」は情報発信のために極めて有益だが、有効回答の中で実施されているのは20.9%で、未実施クラブのほうが多い。

会員の参加状況は、
① 運営の企画にあたって～顔の見える組織体だからこその流儀
② クラブ運営上の課題～「後継者難」がトップ
③ クラブの先行きについて～存続についてすら不安感を感じる例も

(4)会員の参加状況(調査結果の概要　Ⅲ)

①運営の企画にあたって～顔の見える組織体だからこその流儀

まず、会員の意向も多様化する中で「クラブ運営のための企画」方法について調べたが、具体的には「役員等による活動案提示」(67.9%)、「過去の活動内容を踏襲」(60.5%)などが最も多かった。単位クラブは50人以下というものが多く、会員の顔が見える組織規模だといえる。どのような方法であろうとも、会員の実情把握、ニーズ把握のためにクラブ役員や会員一人ひとりに「聴く」姿勢こそが肝心なことなのであろう。

次に、会員の参加状況をいくつかの面から見てみた。

②クラブ運営上の課題～「後継者難」がトップ

運営上の課題としては「後継リーダー育成が困難」(83.8%)を挙げ、また「老人クラブ自体が魅力を発揮できていない」(34.3%)、「魅力的な活動ができていない」(33.7%)が続く。クラブに人が参加しにくくなっていることを表している。

	回答数	比率(%)
老人クラブ自体が魅力を発揮できていない	421	34.3
魅力的な活動ができていない	414	33.7
スムーズな運営ができない	136	11.1
地域での活動を好まない傾向	246	20.0
人間関係が障壁になっている	209	17.0
他の活動・仕事などが忙しい	303	24.7
後継リーダー育成が困難	1,029	83.8
事務処理機能が不安	197	16.0
会員のまとまりがない	140	11.4
事務局による支援が得難くなっている	112	9.1
その他	148	12.1
合計	1,228	100.0

(複数回答)

③クラブの先行きについて～存続についてすら不安感を感じる例も

長い活動実績を持ち、地域社会の重要な一要素であるはずの老人クラブの存続についても強い懸念がもたれていることが分かった。集計の結果は、楽観論、悲観論が相半ばする結果となっている。（複数回答）

	回答数	比率(%)
5～10年間は今のような活動を維持できる	524	43
運営・活動内容の見直し、新入会員の獲得などができれば活動を活性化できる	547	45
5～10年先まで活動を続けられるか不安だ	558	45
合計	1,229	100

他団体との連携や協力関係は、
① 行政とか自治会との連携が大きな支え
② 生活の全領域を対象としているので、きわめて柔軟で奥の深い関係が根底に存在している

(5)他団体との連携や協力関係について(調査結果の概要　Ⅳ)

活動の支援や財政支援などの面では行政(社会福祉協議会)とのかかわりが強い。また活動面での連携、身近な課題についての支援などでは地域の自治会などの支えも大きい。

しかし、実際のクラブ活動の場面では地域の諸機関・諸団体との有形無形の関わりが存在し、時にはクラブ役員には自治会役員経験者が就任するなどの多様な関係性が構築されている。生活の全領域を対象とする老人クラブ活動というものは、役員・会員の濃密な人脈や情報網の上に成り立って有効に機能しているのであり、きわめて柔軟で奥の深い関係が根底に存在している。

他団体との協力関係

クラブ数 / 金額・円	活動の共催		指導・アドバイス		財政支援		各種便宣の供与	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
市町村	440	36.9	225	38.9	585	66.7	164	35.0
社会福祉協議会	749	62.7	370	63.9	327	37.3	218	46.6
自治会町内会	689	57.7	135	23.3	507	57.8	246	52.6
他の福祉団体	160	13.4	43	7.4	28	3.2	38	8.1
学校・幼稚園等	418	35.0	89	15.4	15	1.7	67	14.3
ボランティア団体	287	24.0	56	9.7	18	2.1	52	11.1
その他	45	3.8	21	3.6	22	2.5	16	3.4
合計	1,194	100.0	579	100.0	877	100.0	468	100.0

財政は、
① 収入について～収入平均、29 万円強
② 支出について～事業費、研修費、会議費の順

(6)財政について(調査結果の概要　V)

①収入について～収入平均、29 万円強

単位老人クラブの予算規模について有効回答票を集計してみたところ、収入額の平均値は 293,741 円だった。予算規模は、10 万円～20 万円未満というクラブが、全体の 31.8%を占め最も多かった。また最も大きな収入項目は補助金(集計金額総計 121 百万円)、ついで参加者負担金(116 百万円)、会費(109 百万円)、その他(78 百万円)の順であった。

また受益者負担分というべき「参加者負担金」が会費収入を上回っているが、会費という一律負担部分はできる限り小さくし、参加する者が状況に応じて負担していくという実態に即したクラブ運営の形が考えられていることが窺える。

収入金額別クラブ数

クラブ数 / 金額・円	会費	%	補助金	%	負担金	%	合計	%
0	14	1.0%	3	0.2%	91	10.3%	92	6.0%
1-49,999	397	29.3%	366	25.5%	320	36.1%	39	2.5%
50,000-99,999	625	46.1%	736	51.3%	149	16.8%	154	10.0%
100,000-199,999	273	20.1%	247	17.2%	144	16.3%	488	31.8%
200,000-299,999	32	2.4%	47	3.3%	73	8.2%	288	18.8%
300,000-499,999	10	0.7%	27	1.9%	67	7.6%	281	18.3%
500,000-999,999	4	0.3%	7	0.5%	34	3.8%	156	10.2%
1,000,000-	1	0.1%	1	0.1%	8	0.9%	38	2.5%

②支出について～事業費、研修費、会議費の順

県内クラブの平均支出額は 268,625 円であった。また費目別の支出を見ると(回答票の支出額合計)、最も大きい支出費目は事業費(153 百万円)、ついで研修費(106 百万円)、会議費(64 百万円)、その他(57 百万円)の順である。

支出金額別のクラブ数比較

クラブ数 / 金額・円	会議費	%	事業費	%	研修費	%	合計	%
0	8	0.6%	4	0.3%	27	2.1%	117	7.6%
1-49,999	893	65.8%	407	30.7%	727	57.4%	57	3.7%
50,000-99,999	316	23.3%	406	30.6%	243	19.2%	149	9.7%
100,000-199,999	106	7.8%	322	24.3%	137	10.8%	539	35.1%
200,000-299,999	25	1.8%	85	6.4%	49	3.9%	283	18.4%
300,000-499,999	8	0.6%	64	4.8%	52	4.1%	227	14.8%
500,000-999,999		0.0%	32	2.4%	25	2.0%	131	8.5%
1,000,000-	1	0.1%	5	0.4%	6	0.5%	33	2.1%

自由回答から判断できる各クラブの課題と可能性は、
① 会員加入に関する意見
② 活動やその内容に関する意見
③ 運営、組織に関する意見
④ 財務や費用負担に関する意見

(7) 自由回答から判断できる各クラブの課題と可能性

19 年度のアンケート調査では「自由意見」の欄を設け、定性的な面からも実態の把握を試みた。回答結果は「会員加入に関する意見」、「会の活動やその内容に関する意見」、「会の運営、組織に関する意見」が最も多かった。さらに、「財務や費用負担に関する意見」も一定の数が出されていた。

①会員加入に関する意見

42 件の回答のうち、会員を新規獲得することの困難さ、その背景などについての意見が多かった。

まず現在の老人クラブの置かれている環境がかつてとは様変わりしていることが難しさの大きな背景だとの指摘が多くあった。

ア. 職業生活が長期化していること
イ. 競合する活動や諸組織の増加
ウ. 意識の多様化
エ. 老人福祉が絞られていくという将来への不安が老人クラブに入ることへのためらいを生んでいる

以上のような意見もある。新規加入が減った結果会員が高齢化し、固定化

している。そのため役員交代もままならず、過重な負担を嫌い、入会を敬遠するという悪循環に陥っている一面も指摘されている。

しかし団塊の世代が職業生活をリタイアしてくることは大きなチャンスと見られており、勧誘のために知恵を絞っていることが窺える。

②活動やその内容に関する意見

活動のメニューづくりや活動を進める上での困難さに関する意見が 56 件の中でも目立って多かった。魅力ある活動メニュー作りに取り組んでいるという回答が多い一方で、移動手段の確保困難化、講師選定上の悩みなど、状況が変化する中で課題のありようも変わっているという悩みも共通して多かった。また高齢会員の増加でこれまでの活動メニューがこなせなくなる、友愛活動などのように人間関係の確立がなければ定着しにくい活動に取り組む苦労なども寄せられた。補助金削減で地域の環境美化活動が困難になるなどの時代の大きな流れの中で戸惑っている事例も多く報告されたが、地域に深く根差した老人クラブであるからこそ可能な活動、行政などではうまく出来ない政策と政策の隙間を埋めるきめ細かな活動を続け、地域社会を維持している事例も報告されている。

③運営、組織に関する意見

回答者が役員クラスであるためか、運営に関する回答が 64 件と最も多かった。名称が持つイメージの悪さを指摘するもの、会員構成の偏りから来る問題、会員の高齢化がもたらす運営上の課題、さらには市町村合併後の自治体の対応の変化など、時代背景の変化に関する問題が幅広く回答されている。さらにクラブ運営自体に関わる問題として、会員の意識の多様化、また高齢化等によって運営方法を変えざるを得なくなったり、非活動会員の増加、後継者難なども生じたりしており、組織自体の存立に関わる不安も見えている。先進事例の紹介や行政等の情報提供も多く求められている。

④財務や費用負担に関する意見

回答数 7 件である。会員数が伸び悩むなか、行政の予算も削減され、その狭間で苦労している意見が多い。全体の予算が厳しい中で固定的な経費が負担になっていることも指摘されている。一方こうした情勢下であっても、会員が負担感を感じないような会費のあり方を工夫しているなどの意見もあった。

《ちょっと一言》

Ａ：１６年ぶりの「実態調査」って言うんだから、クラブを取り巻く環境とか活動内容は大きく変化したんだろうね。
Ｂ：そうよね。うちのクラブと同じだけど、平均５０名位みたい。最近は退会者は少ないんだけど入会者も少ないのが特徴なんだって。
Ｃ：じゃあ顔なじみのメンバーでいいんじゃねえの。
Ｂ：そういうわけにいなかいでしょ。だって、毎年一つずつみんな年をとるんだから。
Ａ：老人クラブの高齢化ってことか。
Ｃ：新しい会員が入らないのは活動内容が面白くないんじゃねえのか。
Ｂ：いや、環境美化活動や安全安心活動、スポーツ・レクリエーション活動などいろいろ頑張っているわよ。
Ｃ：付き合いだって楽しくなくちゃ駄目だっぺ。
Ｂ：大丈夫！親睦や友愛活動、趣味活動もやってるし、クラブは高齢者のたまり場みたいな役割かも。
Ａ：でも、新しい会員が入ってこないということは運営がマンネリになっているかもしれないな。どうだろう。
Ｂ：会員の希望を聞いて、なるべく新しい企画に取り組むことが大切ってことね。でも、役員の後継者も不足しているってことよ。
Ｃ：じゃあ、先行き真っ暗だっぺよ。どうすんだよ。
Ｂ：だから、この報告書を作ったんじゃない。どうすればいいかって。
Ｃ：そうか、この後に書いているわけだ。何だか病院のカルテみてえだな。
Ａ：先に進む前に、町内会や社会福祉協議会と連携が進んでいることや、財政状況が厳しいことも確かめておかなくてはな。
Ｂ：社会は変化しているんだから、クラブもそれに合わせることも必要だよね。団塊世代が一杯いることも考えてみればチャンスかも。

⑻ アンケート調査のまとめ

これまで見てきたように、19 年度アンケート調査おいては県内の全ての単位クラブを対象に実態調査を行い、「クラブの概況」、「活動状況」、「運営状況」、「行政など外部との関係と財政」などについてほぼ全体像を把握することが出来た。

県内の個別の単位クラブは全国比較でやや小規模ながらも、多様な事業に取り組み成果を収め、また時代背景が大きく変化する中で地域社会を維持する活動を地道に継続し、新たな環境変化に立ち向かっている。もちろん社会経済環境の変化の中でクラブ運営を取り巻く問題は生易しいものではなく、いろんな面での行き詰まり、財政面や行政支援面の弱さの露呈もあり、非常な困難さを感じている。

ところでアンケート結果について様々な分析を行ってみても、なかなか活発化につながるキーワードを見つけたり、活動のポイントを絞り込んだりすることは難しい。また自由意見欄もどのような立場からの発言であるかによってどう受け止めたらいいかが異なってこよう。

そのためアンケート集計結果、加えて自由意見欄の個別の指摘をふまえて、単位クラブの実態調査・ヒアリング調査を行うことが最終的な調査報告のためにぜひ必要となってくる。そのため、20 年度においては 19 年度に行ったアンケートの形に沿って単位クラブを切り口とした実態把握を行うこととした。

４　「モデルクラブ 10」の聞き取り調査をするにあたって

⑴聞き取り調査にあたって

県内の 10 の単位クラブを訪ねて、組織や活動の実態を聞くことになった。しかし、この聞き取り調査をするにあたって、こんな疑問がわいた。

１．若手会員とベテラン会員の世代の間はうまくいっていますか？
　①　若手会員候補の世代と交流がありますか。
　②　若手会員世代が、魅力を感じる活動を行っていますか。

２．活動がベテラン会員中心の活動主体で、マンネリ化していませんか？
　①　若手会員の意見が反映された活動になっていますか。
　②　全ての会員が参加する活動と、希望者が参加する活動があるのではないですか。

３．各役員が十分に機能していますか？
　①　会長だけに役割･責任が集中していませんか。
　②　運営や活動ごとの役割を分担すれば、参加の意識が高まりませんか。
　③　若手会員がふさわしい役割やベテラン会員にふさわしい役割がそれぞれにあるでしょうか。

そこで、

モデルになっているクラブ１０の方達に率直に尋ねてみることにした。

⑵聞き取り調査の視点

①　クラブ選定の理由

ヒヤリング対象のクラブは、県内全域のクラブの状況を知る必要があり、県老連指定モデルクラブを中心に選定することとした。

県内の県北、鹿行、県南、県西の４ブロック毎に、地域バランスや、市街地的な地域や農村的地域などを考慮し、２クラブずつ選定するほか、平

地と山間地域などの自然条件や、農村地帯と市街地、新しい住民の多い地域と古くからの住民が多い地域などの社会的条件などから、(県北の農村地帯から１クラブ、と県南の住宅団地の１クラブのそれぞれ）最も特徴的な２クラブを選定することとした。

②　質問内容

クラブの会長・役員の方々等と、直接意見交換を行い、ホンネを伺い、そのクラブの実態、おかれた環境（地域性・地域住民の特性、会員構成、市町村等他の組織との関係、その他）を明らかにすることを目的に設問を構成した。

しかし、当然のことながら、質問項目に沿って意見交換ができるものではなく、そのクラブの特性が把握できることを最終目的として、意見交換を実施した。

男性会員と女性会員の意見の違いや、個々の活動に対する評価の違い、将来のクラブ活動についての考え方など、具体的な生の声を伺うことにより、アンケート調査では見えない、微妙なニュアンスの違いを、感じ取ることに力点をおいて話を伺った。

５ 「モデルクラブ 10」聞き取り調査結果表

調査対象：県内各地 10 モデルクラブ
調査機関：平成 20 年 7～9 月
対 応 者：各クラブ会長ほか役員等(5～15 人)
調 査 者：「茨城県老人クラブ実態調査結果」分析・調査プロジェクトチーム
(茨城大学長谷川准教授、常陽地域研究センター木村事務局長、茨城県長寿福祉課前澤主任、茨城県老人クラブ連合会前野常任理事、同岡崎係長)

「モデルクラブ 10」聞き取りの結果から、続く「6 章　いきいきクラブ茨城：２１世紀への提言」を取りまとめました。なお、聞き取りの詳細な報告は巻末に資料 1 として掲載してあります。

６ いきいきクラブ茨城：２１世紀への提言

老人クラブは、間違いなく地域資源である。「お金ともの」中心に豊かさを追求した日本社会の中で、とても重要な役割を担ってきたからである。また、都市化が進行する中で、都市においても農山漁村においても固有な役割を担ってきたからである。

高齢社会が現実のものとなってきた現在、老人クラブは地域資源から地域財産として意味を変え始めているように思える。ハードな財産ではなくソフトな財産（文化や暮らし方、組織など）としてである。

それにもかかわらず、クラブ運営が困難になる事例が少なくない割合で報告されている。

これは変だ！絶対必要なのに、なぜ衰退し始めたかのような様相を呈するのだろう。

そこであらためて、老人クラブの社会的価値やあり方を見直し、もう一度気合を入れて楽しいクラブ活動の創造に着手し始めることにしよう。

最初に、平成２０年度に実施した「モデル１０クラブ聞き取り調査」の内容に基づいて、「いきいきクラブ茨城」のあり方を整理し、各単位クラブへの提言としたい。

提言を整理するために、以下のような５つの考え方で基本とした。

提言の５つの考え方

提言の考え方①　老人クラブ活動の社会的意味を再整理し、
社会的価値（有用性）を確立すること

提言の考え方②　老人クラブの現状を整理し、
新しい可能性を提案すること

提言の考え方③　新しい可能性の方向性を示す、
多様な考え方を提示すること

提言の考え方④　何よりも会員自らが
活動に誇りを感じられること

提言の考え方⑤　最後に **わかりやすい**ことと**利用しやすい**こと

(1) 提言Ａ：老人クラブ活動課題解決への心構え

現状分析によって老人クラブが抱えている課題を整理することができた。これらの課題への処方箋を組み立て、課題解決を図るためには以下の様な心構えがポイントである。

課題解決７つの心構え

① 老人クラブ会員としての誇りを確認することが大切です

＊自分たちの活動は社会的に重要な役割を果たしている。そして、自分はその一員として活動しているという誇りです。

② 自分たちの活動がなぜ素晴らしいのかを確かめることも大切です

＊色んな活動を当たり前のように行っている自分を確かめることです。

③ 茨城県全県や全国で活動しているクラブと連帯することです

＊自分たちの仲間は、一年３６５日どこかできっと頑張っているという確信が大切です。そして、その活動が響き合って生かし合っているということを実感することです。

④ 自分たちの活動に参考になることを学習することです

＊同じ悩みを持っている会員は沢山いるのです。だから、成功しているクラブの活動の特徴から学べばいいのです。

⑤ 学んだことや感じたことをクラブ員と共有・共感することです

＊クラブ員とざっくばらんに語り合い、納得し合うことが大切です。

⑥ 課題解決は出来るところから無理のないペースで、楽しみながら行うことが大切です

＊課題解決は社会的活動の基本です。環境美化も安全・安心もみな課題解決の一つです。クラブ員の確保も楽しみながらみんなで活動することがポイントです。

⑦ 課題を達成した時の充実感を確かめ合うことが重要です

＊みんながいて楽しいのです。だから、頑張れるのかもしれません。同時代に生き、同一地域で支え合う仲間がいることを喜び合いたいものです。

⑵ 提言Ｂ：老人クラブは７つの社会的役割を担う

この「提言 B」の節では「老人クラブの社会的役割」を 7 つの面から説明する。これらの役割を踏まえた活動を望みたい。

その①老人クラブは、**健康づくりや介護予防を実行している最前線の団体**

(ｱ)多くのクラブがグランドゴルフやペタンクなどの軽スポーツ活動を中心的活動として取り入れており、「暮らしの中に運動を」実現している。

(ｲ)老人クラブは間違いなく大規模で日常的な健康づくり団体であり、この関わりは認知症予防の活動としても評価されるものである。

(ｳ)これは、老人クラブ会員と非会員との暮らし方・健康状態に大きな影響を与えていると言える。

(ｴ)茨城県内の市町村比較によれば、老人クラブ会員加入率が高いほど医療費にかかる費用が少ないという結果が出ている。

(ｵ)**日本の長寿は老人クラブから**

日本の健康な長寿を支える重要な組織が老人クラブである

その②老人クラブは、**生きがいづくりや親睦・人的交流を促進する、普段着の団体**である

(ｱ)多くのクラブは友愛訪問活動や親睦旅行を実施している。

(ｲ)これは、核家族の増加に伴い全国的に増加している「引きこもり」や老人性うつ病の発生を抑制する有効な活動である。

(ｳ)特に男性の独り暮らしに多い「引きこもり」に見られるように、社会的交流の場を失いつつある高齢者には必須の活動団体であると言える。

(ｴ)「日常《ケ》と非日常《ハレ》」の考え方によれば、３６５日のケの生活の中にハレを設定できる貴重な団体と考えられる。

(ｵ)**生きがい･親睦は老人クラブから**

老後の豊かな毎日を支える生きがいづくり団体が老人クラブである

その③　老人クラブは、**文化や伝統を継承していく重要な目的別団体**である

(ｱ)宮崎県のある団体は、「お年寄りが一人死ぬと言うことは、小さな図書館が１館なくなるに等しい」と表現している。それだけ多くの知恵や知識・文化を蓄積しているのが老人である。

(ｲ) また、人間の知能には２つの知能系があると言われている。若いうちが中心の流動性知能系（年をとると忘れてしまう）と絶対忘れない記憶のカプセルのような結晶性知能系である。結晶性知能は次の世代に手渡していくべき重要なカプセルだと言われている。

(ｳ) 現在の日本は、この大事なカプセルを開放し、次の世代に手渡していくという大切な場を失いつつあるのかもしれない。

(ｴ) 多くの老人クラブは異世代交流に積極的に取り組んでいる。蓄積した文化や伝統を手渡していくという課題に真正面から取り組んでいる集団こそ老人クラブである。

(ｵ) **大切なことをきっちり伝える老人クラブ**

日本の文化や伝統を世代を超えて手渡していく集団が老人クラブである

その④　老人クラブは、**地域･ふるさとづくりを推進する地域団体**である

(ｱ) 茨城県内の老人クラブは色々な特色をもつ地域社会で活動している。都市近郊の住宅団地もあれば、中山地域や水田地帯、漁村など実に多様である。

(ｲ) したがって、地域社会の歴史や誇りをつなぐ活動を行っているクラブもあれば、新しいふるさとづくりの活動に力を入れているクラブもある。

(ｳ) 高度経済成長の中で、多くの青年はふるさとを離れ、新天地で新しい生活を始めた。一方ふるさとに残り守り続けた青年も少なくない。この青年たちが今高齢期を迎え、再び地域づくり、ふるさとづくりの先頭に立ち始めつつある。

(ｴ) 老人クラブは地域社会の要として、この活動の一翼を担っている。

(ｵ) **地域の要は老人クラブ**

地域を守り、新しいふるさとづくりの要が老人クラブである

その⑤　老人クラブは、**安全･安心を守り、育む防犯防災団体**である

(ｱ) 老人クラブの多くが子どもの安全・安心を支える活動を行っている。

(ｲ) あいさつ･声かけ運動の担い手であり、地域社会の見守り活動も旺盛に展開している。

(ｳ) さらに、交通安全に関する活動や救急活動の研修を行っているクラブも少なくない。

(ｴ) ２４時間住民としての暮らしが豊かであればあるほど、地域社会は安全・安心である。

(ｵ)**安全･安心は老人クラブから**

身近な場所から地域の安全を形成するネットワークが老人クラブである

その⑥　老人クラブは、**環境･美化活動団体**である

(ｱ)多くの老人クラブが花壇作りや道路清掃などの環境美化活動を展開している。

(ｲ)地域の環境を自らの力で維持していくと言う考えは、ちょっと前までの日本では当たり前のことだった。

(ｳ)行政と住民のこのような関係が今、「協働のまちづくり」として再生し始めている。

(ｴ)協働のまちづくりの考えを体現し、地域の環境を支えていく団体として、老人クラブの活動を理解することができる。

(ｵ)**地域のキレイも老人クラブから**

地域の環境は地域の力で守る、環境自治団体が老人クラブである

その⑦　老人クラブは**高齢者の[新しい生き方・暮らし方]を創造する団体**である

(ｱ)戦後６０余年、日本人の考え方・暮らし方は大きく変化してきた。退職後の生き方、暮らし方も大きく変化してきた。

(ｲ)「お金ともの」中心に築き上げてきた日本の豊かさだが、新しい老後の暮らし方はまだ見つかっていない。

(ｳ)老人クラブでの様々な活動や関わり方は、次に続く世代に老後の素敵な暮らし方を教えてくれているはずだ。

(ｴ)団塊世代の退職後の設計のヒントだって、そこには隠されているに違いない。会社時代の長所も短所も全部まとめて、爽やかな生き方を創りたい。

(ｵ)老人クラブは、一歩先にその姿を生み出している組織である。

(ｶ)**胸を張って、背筋を伸ばして、老人クラブ**

新しい人生設計を生み出し続けているのが老人クラブである

⑶ 提言Ｃ：老人クラブ活動への具体的提言

老人クラブ活動への具体的提言とは ⑴クラブの組織について ⑵活動の充実のために ⑶クラブの財政・行政との関係について

ここでは、前年度のアンケート結果、単位クラブの聞き取り、取り巻く情勢の分析など、今回の調査によって得ることができたクラブ活動への提言をいくつか述べておきたい。

①クラブの組織について

～クラブ縮小、会員高齢化の荒波のなかのクラブ維持のために～

⑺老人クラブを全ての住民の水先案内人と位置づけ、そのままの姿を PR していこう

○加入年齢層の住民に対する PR を、行政や自治会等を通して強化。タウン誌への投稿など時代の流れを汲んだ広報努力も不可欠。

○広報のスタンスは、あくまでも老人への尊敬、クラブの尊さを基本とするよう働きかけ。

○地域のオアシス・花壇や公園整備などの担い手として「老人クラブ」を強く押し出していくことは大切。

⑴事業別委員会（部会）設置などの組織整備は会員を活性化する

○活動組織の整備と部門別責任者の選任で活動の充実と参加者の充実感を。気のあった同労者との仲間意識の醸成も可能に。

○事業別の委員会を設置しているクラブをモデルにしよう。

⑼役員（会長）選出にクラブの知恵をあらわす

○腕力型、人柄型、実務型、等々。クラブの実情にあった選出方法で選択する知恵を大切に。

○自治会等の協力や支持を得て選出する地域バランス感覚も大切に。

⑸目配り可能なクラブ活動こそ強さの根源。最適サイズと最適活動を。

○意思疎通ができ、また事業進捗の把握も可能な組織の規模というものがある。会員と役員が最適と感じるクラブ規模を大切に。

○クラブ内に部会を設けて運営負担の軽減を。「クラブが分社化」して離陸して行ったら最高。

(ｵ)他組織との連携強化で魅力度アップと負担軽減

○担当する人が増えれば、自クラブの準備負担は小さくなることも。

○他組織との交流や相互乗り入れの検討も行ってみては。

クラブ組織に関する提言一覧

	提言	説明	方法
会員組織に関して	クラブの PR 活発化	住民に対する PR が不足。特に加入対象者へは積極的に PR すべし	チラシから行政の広報紙まで多様な媒体を活用。花壇にもクラブ名掲示
	様々な組織との交流促進	相互理解の促進、多様な選択肢の提供	他組織視察・訪問、相互乗り入れ、協力関係構築
	活動活発化のための組織整備	有効な活動を推進し、参加者の満足度・達成感を向上させる必要	事業別委員会設置。発言の場の保証など。
	目配り可能な規模を目指す	意思疎通が可能な組織の規模は数十人。この規模なら十分可能、活動の充実	クラブの最適規模を決めよう
	会長は地域全体で選ぶ	地域が求める人材を会長に。選考には広く地域の意見を	

②活動の充実のために

～行って疲れる活動となるか、元気をもらえる活動とするか～

(ｱ)意義のある活動、会員が喜ぶ活動を第一にやって行こう

○環境美化活動、スポーツ・趣味の会活動。取り組み No1 となっている背景を考えよう。自分たちに一番似合った活動だからこそ、頑張れる。

○「安心安全活動」等々。大切な活動と、自分たちがやるべき活動とは別。活動ができる組織になったらやって行こう。みんなの思い、動ける組織がなくては身が入らない。

(ｲ)新しいぶどう酒は新しい皮袋に。若手を求めるならふさわしい環境を

○加入させたい若手に照準を合わせた勧誘をしているか。

○部会を作る、任せる。役員に登用。まず環境を整えて若手を勧誘しては。

(ｳ)人から望まれる価値ある活動。必ず予算も付いてくる

○今手元にある予算、今いる会員でできる活動を考えてみよう。実情に似合った活動となっているか、検討するよい機会かもしれない。

○そして、活動資金獲得の活動もやってみては?　参加者負担金、行政や団体、事業所。老人クラブの活動は各方面から高い評価がつくはず。

(ｴ)加入勧める「クラブ」とは?

○ 加入した後、集う居場所はありますか。会員を支えることができるでしょうか。そしてそこは暖かい場所ですか?

クラブの活動への提言一覧

	提言	説明	方法
活動内容に関して	環境美化活動のNO1団体	地域で生きてきて、ここを終の棲家とする老人だからこそ地域環境美化に最も熱心	町内会、行政との協働(委託、補助金)によって環境美化に取り組む
	やりたい種目を果敢に事業化	会員の得意技を中心に活動。会の魅力度を最大限引き出せる活動に集中	徹底的な傾聴・話し合い。潤沢な情報提供
	祭、諸行事への参加	地域住民の一体性強化に役立つ活動を率先	地域行事へのクラブとしての参加
	世代ごとの最適活動メニューの整備	入会対象の若手に好まれる活動メニューも整備して加入促進を図る	世代ごとの活動メニューや部会の用意。若手の役員登用
	補助金・事業受託。民間等の助成事業取り組み	活動の幅が広がる。組織力、財政力面ともに強化される	補助金情報の収集と受託活動。企業の社会貢献事業などの活用
	活動経費の節約と効率的支出	費用のかからない活動の工夫、適正な参加者負担などで、財政の足かせを取り払う	経費削減策、低コストメニューの研究。
	他団体との協働促進	自治会等との協働によって経費や手間を減らせる	同種事業では他団体と協働
	自主財源の確保	資金稼ぎ活動の導入	手作り品のバザー、産業祭等への出品
	会員の居場所づくり	居場所=活動拠点の確保で誰かはいつでもいるクラブに	拠点、事務所などの確保支援

③クラブの財政、行政との関係について

～評価すべき多大な経済効果、地域活性化効果。しっかり主張しよう～

(ｱ)角を矯めて牛を殺すことのない行政の対応を求めよう

○環境美化、安心安全活動・・・。事業目的は「高齢者福祉」だけではない。地域が美しく生き返る活動が行われているのです。

○活動活発化は高齢者の健康増進、医療福祉費用の削減に大きく寄与する。効果の高いお金の使い方を。

○「独居老人訪問」。役場から訪ねていく、近隣から出かけていく。どちらが親身で効率的? 地域に住み、地域を知るクラブの底力を知らしめよう。

(ｲ)老人クラブの目線を尊重した行政の柔軟な対応がますます求められる

○「申請書類づくりが苦痛」。高齢化時代の役所窓口の対応再構築を求めてみよう。

○「シルバー人材センター」、「公民館」・・・。では、老人クラブにはどんな活動と役割が?

(ｳ)企業や諸団体は地域貢献や環境対策の計画と予算を持っている

○地域の企業・団体に事業提案をしてみよう

○自治体、企業の地域貢献の担い手として手を上げよう。

(ｴ)資金難!!活動再構築の機会かも知れない

○「財政。無いなら無いなりに」の、自然体の運営に徹してみてはどうか。

○環境変化は、思い切った活動の再構築の機会かもしれない。

クラブ財政に関する提言一覧

	提言	説明	方法
財政に関して	一律の補助金カットは地域崩壊につながる	環境整備、独居老人訪問等の行政機能の代替活動まで削ってはいけない	地域の活動における役割を積極的に PR し老人クラブの必要性を認めてもらおう
	重要種目の優先実施	財政難は活動の優先度を決める機会でもある	新人も巻き込み、活動の優先度を検討してみては
	合併でコスト削減	活動の連携や統合は固定費削減の一方策。時には検討を	クラブ間の意見交換会も必要か

	提言	説明	方法
行政等との関係で	シルバー人材センターなどとの役割分担	老人クラブに最適の地域活性化メニューを提示する。クラブを行政の手足にはしない。	老人クラブの特性を訴え、行政の政策能力向上を期待
	他団体との連携交流促進	役員等が兼務している他団体との共同事業等の推進。クラブとして社協、自治会事業に参加。	社協、自治会、民生委員等と連携強化
	有力な人脈、指導力を獲得	地域リーダーを取り込みたいのは何処も本音。老クも負けない	多くの団体等との交流・情報の取得
地域への提言	地域の企業・団体との関係強化	企業・団体に老人クラブを事業パートナーとして認知させよう	行政や企業等に情報提供する機会を
	町内会等に協働の必要性を認識させよ	町内会とはすでに多層的に協働。いつでも働ける老人クラブのパワーを認識させよう	町内会との連携を多面的に推進。加入促進活動も並行して進める
行政への提言	補助金は役所各部から	行政の各部とも老クと連携すれば円滑化する事業がいっぱい。総合予算の考え方を求めていく	地域貢献活動の幅広いPRの場の確保
	直接的経済効果もアピールする	クラブ活発化と行政の福祉費負担軽減の相関度は高い	行政効率化とクラブ支援とは相関関係あり
	他団体との連携促進を求める	老人クラブ単独で難しい事業も連携で実現したい	他団体との連携機会の確保支援
	高齢化施策・総合計画に老クの役割を位置づけ	地域のため、健康維持のため、老クの力を認識し地域計画に位置づけよ	行政への前向きの意見は積極的に伝えよう

７ アンケート調査　「自由意見」の概要

ここでは、平成 19 年度「老人クラブ実態調査アンケート・自由意見欄」に記載された意見の概要を紹介する。
「自由意見の概要」は巻末に、資料 2 として記載してあります。

「老人クラブ実態調査アンケート」について

調査対象；県内全単位クラブ　２，９０６クラブ
（平成 20 年 1 月時点の当会機関紙送付クラブ数）
調査方法；単位老人クラブ代表者にアンケートを郵送し、回答表を返送していただいた。
調査時期；平成 20 年 2 月発送、2 月 29 日までに回答
回収状況；回収数１，５３６、回収率５２．９％

自由意見のまとめ（「課題」欄のカッコ内数字は回答されたアンケートの数）

区分	課題	主な意見
加入(42)	新規(17)	新規入会者が少ないことへの悩み。現状は、60歳頃からの入会が敬遠されている。また、役員就任の負担を警戒して入会を敬遠する、などの傾向。全体的に入会者の減少は深刻。団塊の世代が入会勧誘対象として有力視されている。
	会員増加困難(2)	60代の会員が減るなどして、会員数は減っている。高齢者人口が増えるなかで会員数減少という傾向に危機感を持つ。
	困難(15)	高齢になっても仕事についており、入会してこない。社協、女性クラブ等の競合する組織の存在も入会阻害要因。活動が煩雑と考えること、会の活動に無関心であること、人との関わりを避ける傾向、加えて役員就任への警戒、老人というイメージの悪さなども勧誘を難しくしている。
	高齢化(8)	60歳代の入会者の減少、新規入会者の減少で高齢化が加速。役員就任警戒感が強いこともあるが、仕事を持っていて自由時間が少ないことも新規加入減・会員高齢化の背景。
活動(56)	社会情勢(7)	男性会員が少ない、高齢化が進展、などの環境変化で事業内容が限定的になり、活動エリアも限定される問題。会員の考え方に幅がありすぎ、一致して活動ができにくい社会情勢。
	評価(8)	老人クラブが社会と接点を持つ窓口となり、健康の維持、社会的孤立の防止、居場所作りに有効であると評価。協力的な会員も数多く、気軽に安心して集まれる場となり機能している事例が多い。
	組織(2)	部会組織による活動態勢の充実、活動内容のレベル維持などの評価すべき事例
	種目(19)	魅力ある活動の取り組み、健康維持のための活動を考慮、体力を考えた事業を工夫、など様々な取り組みがなされている。しかし参加者確保にはいつも苦労している。講師の確保、バス等の移動手段確保など、ネックになる問題も多い。
	補助金(4)	地域で評価され、環境美化に役立っている事業であっても、助成金がなくなり継続困難になる事例など。自ずと、お金がかからない事業、狭い活動範囲に限定され勝ち。一方で活動実績に見合った補助金はありがたく活発化が図れているという事例もあり。
	困難(13)	高齢化で体力が低下し活動種目も狭まってくる。従来の活動が出来にくくなる。奉仕作業、友愛活動の取り止めなどが報告されている。
	参加(3)	参加促進のため、民主的な活動、会員増加策等の充実を図る。

運営(64)	イメージ(5)	特に、「老人クラブ」の名称はイメージが悪く活動を不活発化させる遠因となる。
	協力度(9)	活動に参加する人は少なく、役員のなり手もいない。人間関係を構築するのが難しいことがあるが、要は思いやり・自己犠牲の精神の希薄化が大きい。
	情報(4)	組織状況、他クラブの活動状況に関する情報不足。情報の適切な還元がなされていない。
	役員(9)	リーダーの心得は率先垂範。専門部会を作り会員の力を結集。しかし後継者難、役員高齢化、会長の孤軍奮闘が深刻な悩み。経費持ち出しで運営している実態もある。
	組織問題(9)	「老人クラブ」の名称はイメージが悪いが、地域への PR は大切。役員の任務を果たせない役員、会長への業務集中などの問題。実働会員と名簿会員の格差が大きい。実質的な会員は名簿の半分か。
	円滑化(8)	運営円滑化のための多様な工夫事例。他のクラブの事例紹介は有効だ。長寿国日本では老人クラブの活動は大きな財産、活性化させたい。
	会員構成(2)	男性会員が少ない。会長職のなり手がいなくなる心配。
	活動内容(5)	会員が高年齢化、交流と支えあう活動が大切になる。他の老人組織との活動差別化が難しい。体力のある無しにより活動を分けて考える等の対応が必要。規制を好まない人たちに配慮した緩やかな運営が必要。
	運営費(2)	会員の減少で財政が細る。会費値上げはクラブ離れを加速するので無理。行政の支援が必要だ。
	高齢化(3)	会員の高齢化進展、70%が 80 歳以上のクラブも。活動の中心は健康の維持と寝たきり予防などとなってくる。
	困難(8)	新規クラブ立ち上げの苦労、運営面の困難。合併後の自治体の支援の希薄化。高齢化した会員のみでの運営の困難さ。
会計(7)	負担(5)	会員確保のため会費徴収なし。経費きりつめで運営をしている。加盟する上級会への負担も大きい。
	予算減少(2)	高齢者支援予算の減少を憂える。会運営は予算がなければ出来ない。

８ おわりに

分析・調査プロジェクトチームメンバーが、今回の調査を通じてクラブの皆様から学んだこと、感じたことを述べてみます。

長寿を美しいと感じる社会に

今の日本社会はかつてなく厳しい生き方を求めるようになってしまったと思います。一人ひとり、孤独な生き方を強いられている私たちです。お互いが支え合い、自分が持っているものを分かち合おうという気持ちも、昔の貧しかった時代に比べずっと薄らいでしまったようです。生きていくのがとても大変な時代です。こんな時代ですから高齢者も、また若い人たちも、将来への希望を持ちにくくなってしまいました。

いま、この時代、私たちは将来にどんな望みを持つことができるのでしょうか。この実態調査に携わってみて、その答えの一つが高齢者=自分の先輩たちが魅力的に映り、高齢者が皆に尊敬される社会が実現されることだと分かってきました。そうすれば全ての人が自分の将来に希望を持つことができるのです。老人と老人クラブは、今の世の中に対して大きな役割を担うことができるのです。今が大切な時期、これからが大事な時期です。

「白髪は、義の道に見いだされるとき、美の冠である。（ソロモンの箴言）」

（常陽地域研究センター 木村）

地域を支え　茨城を支える老人クラブ

県では，このたび，平成 21 年度から 3 年間を計画期間とする「第 4 期いばらき高齢者プラン 21」を策定致しました。この計画では，政策目標を「誰もが健康で生きがいを持ち高齢期を主体的に暮らせる環境づくり」とし，「健康づくり・生きがいづくりの推進」「利用者本位の介護サービスの充実」「認知症への対応と高齢者の尊厳の保持」「人にやさしいコミュニティづくりの推進」の 4 点を今後 3 年間の施策の柱として位置づけています。

老人クラブの活動は，この計画に基づいて推進されるさまざまな施策に深く関連しています。たとえば，老人クラブが取り組む介護予防活動は「健康づくりの推進」に，社会奉仕活動は「生きがいづくりの推進」に，見守り活動は「高

齢者の尊厳の保持」に，地域づくり活動は「コミュニティづくりの推進」に，それぞれ多大な貢献を果たしていると考えられ，今後，高齢社会がいっそう進展する中，老人クラブの役割はますます高まると認識しています。

一方，現在，多くの老人クラブでは，会員の減少による運営難や活動のための財源不足という重い課題を抱えているところです。しかしながら，これらの問題については，上記のような老人クラブの果たすさまざまな役割が広く県民に理解され，「老人クラブと地域の支え合い」という意識が広まることで，少しずつ解決に向かっていくものと考えています。そのためにも，県におきましては，市町村と協力しながら，引き続き老人クラブに対するバックアップを進めてまいりたいと考えています。

老人クラブ会員の皆さまには，社会を支える一員として，これからも地域において活発な活動を続けていただき，高齢者が健康で元気に活躍を続ける社会づくりに御協力賜りますようお願い申し上げます。

（茨城県長寿福祉課　齋藤）

クラブのきずな

今回の事業を通じ、改めてクラブ役員・会員の皆さんが元気に地域で活躍されていることを感じることができました。

しかし一方では、老人クラブの解散や、それに伴う加入率の減少が言われ、いろいろな場面でその問題について議論をしてきたことと思います。

ここに、皆様のご協力をいただいて資料をまとめることができましたので、クラブの運営に悩んでいる役員や会員の皆様の活動に少しでもお役に立てればと思います。

そして、心と心で結びついているクラブの絆を、それぞれの地域で継承し続けられることを、皆で考え行動しましょう。

（茨城県老人クラブ連合会事務局　岡崎）

老人クラブの想いを　あまねく地域に届けたい

今回の実態調査を通じて、本当の老人クラブの一端に触れることができたように感じています。

老人クラブは、自然や社会的環境、地域の成り立ちや会員の年代構成、会員の人生の軌跡、・・・さまざまな要素が、さまざまなクラブを作り上げているよう

に思えます。
　そのような中で、各老人クラブに共通して感じたことは、クラブ活動へのリーダーや役員、活動的な人々の熱い思い、自分達の地域や伝統・文化などを引き継いでいかなければならない伝承者としての思い、自分達の地域を少しでも良くし、自分達の子孫に、負担を残さず、自然や地域社会の良きものを財産として残すべく努力する人々がいることです。このような思いを持つ人々の灯りが、すべての地域に、誰の上にも行き渡る日の来ることを信じたい。

（茨城県老人クラブ連合会事務局　前野）

おわりは　はじまり

　「おわりに」を書く時にいつも思うことがある。「いったい何が終わったというのだ。これからが本番じゃないか。これを現実にしていくことこそ本番じゃないか。じゃあ、おわりには『はじめに』ということじゃないか」と思うのである。
　私ももうすぐ還暦を迎える。仕事の人生の「おわりに」を書き始めなければならない時期になってきた。色々あったが、そろそろ店仕舞いということだ。だが待てよ。仕事の「おわりに」の後の「はじめに」に何を用意すればいいのだろうか。
　全国には私のように感じている団塊世代があふれている。途方もない時間を前にして、為す術なくたじろいでいる姿が目に浮かぶようだ。虚空を見つめる眼差しの先に、新しい暮らし方、新しい出会いを示してくれる先人達はいないのだろうか。
　本報告書を作成する仕事に関わらせていただいたお陰で先人達の影に触れ得たような気がする。貧しさの日本から立ち上がった思いと行動が私達を励ましてくれているようにも感じられる。豊かさの空白に茫然と佇んでいる私達に確かな道標を示してくれているかのようである。
　老人クラブ調査から、２１世紀の日本人の新しい暮らし文化の到達点を見つけていただければ幸いである。さあ、ここが「はじまり」だ。

（茨城大学　長谷川）

資料

資料１　単位クラブのヒアリング概要 ･････････････････････ 36

資料２　19 年度アンケート調査「自由意見」の概要 ･････････････ 56

資料１　単位クラブのヒアリング概要

単位クラブ聞き取り調査結果　１　（県北地域/市街地のクラブ）

会員数　40 人　実働会員数　20 人

１．クラブについて

①クラブの特徴

地域的な特徴	JR 駅東側が本会の区域。もともと平地林であったものが開発され、住宅、また学校・行政機関等の業務機能が集まった地域。戦後暫くしてから開発されて、市内、近隣の人たちが移り住んで形成された街。
会員構成・属性面の特徴	住民はサラリーマンが比較的多く、会員も同様の構成。女性が多い会員のほとんどが 70 歳以上、年齢別には 80 歳未満、80 歳以上が半々といったところ。会長の父上もかつてはクラブ会長を務めていたというように、役員クラスの間ではクラブを大切にし、暖かい信頼関係を維持していこうとする意向が強い。クラブへの相応の評価、クラブ内の自由な雰囲気の維持、役員間と会員相互の風通しのよさなどが会の活発さの要因か。公民館活動、シルバー人材センターなどとの競合も強いが、同条件の中であっても他のクラブの活動は停滞気味。本クラブの活発さが抜きん出ている。
活動の内容・ジャンル面の特徴	事業内容は極めて広範にわたり、地域にある幼稚園・保育園とのふれあい事業、海岸清掃、スポーツ、親睦活動と盛りだくさん。毎月役員会を開き、十分な意見交換を経て事業が組み立てられている。一方行政の補助金は大幅カット。お金のかからない事業にシフトしている。

②重点課題（ここ数年のうちに解決しておかなければいけない課題）

新規の会員募集には極めて困難が伴う。一般的に人付き合いのわずらわしさを忌避する傾向の中で、勧誘の妙案はないのが現状。

２．クラブの活動状況について

	現在の取り組みの評価	目指すべき方向
①社会貢献活動	海岸清掃（市協議会への参加）や空き缶拾い。老人福祉施設慰問。 活動は定例会などで企画して、非常に多様な活動となっている。しかし、一面では補助金カットによりこれまでどおりに進められな	

	い事業も出ている。地域のニーズと財政などの実体とのバランスを考えつつ進めているところ。	
② 健康増進・介護予防活動	クロッケー、ゲートボール、ペタンクなどを取り入れ、練習は毎日。市職員を講師に健康促進の学習など。	
③教養・文化・交流活動	友愛活動の実施。誕生会。見舞い訪問活動。新年会、花見・紅葉観賞、一泊旅行の実施。	ふれあい事業(独居老人訪問活動)補助も一律カット。どうなるのか、不安。地域の崩壊につながりかねない行政の姿勢に困惑。

３．クラブの運営について

	現在の取り組みの評価	目指すべき方向
事業の企画立案などについて	役員会・月例の定例会で十分な審議を経て承諾。また現在、手一杯と言うほど多様な事業が行われている。	
会員の参加状況について	定例会議、新年会、ふれあい事業などは60%が参加。一泊旅行は45%程度の参加。しかし、他地区を見ると老人クラブの活動は停滞。	未会員への勧誘が難しい。地域や他人への無関心が原因。
クラブの維持について	会員が自分の人脈の中で会員を募ってくる。	

４．他団体との連携や協力関係、財政について

	現在の取り組みの評価
他の団体との連携や協力について	生涯学習・老人大学に人が流れる傾向。しかし学びっぱなしで自己満足に陥っている例も。老人クラブのような地域活動に結びつけるアフターケアが出来ていず、地域コミュニティの維持には役立たないという欠陥がある。
財政、活動費の問題について	地域の幼稚園との交流は周囲から期待されていた活動。行政の補助が途絶え実質的に不可能に。行政の地域活動評価のシステムがない。これら活動に替わる活動組み立てに苦慮している。

単位クラブ聞き取り調査結果　２　（県北地域/農村部のクラブ）

会員数　50 人　実働会員数　25 人

１．クラブについて

地域的な特徴	旧役場所在地、地区内には 90 世帯。この地区の中心地区。住民の移動は少ないが、役員の中にリタイア後に妻の実家の本村に移転してきたＪターン組もいる。しかし人口減少も顕著、地域に密着した農林業への依存も小さくなり、地域・住まい・仕事間の分離・乖離が進んでいる。
会員構成・属性面の特徴	毎年、数人ずつ加入している。かつては会員数 86 人の時代もあったが、今後大きく増加することは難しいと思う。しかし現会長は解散の危機にあったクラブを引き受け、ここまでもってきた人。 人の移動は少なく、誰でもが地域の情報を熟知している。クラブでは過度のパフォーマンスや一方に偏った組織運営など好ましくなく、また意味がないことを承知しており、地道で丁寧な活動を心がけているという。その結果会長職は、地域で推される、人格的に優れた人が務めることが一番落ち着きどころが良いということになる。 地域のよさ、会長など役員の人柄の良さなどが特筆すべき特徴点であり、この点を押さえなければ他のクラブにそのままノウハウを移転しても有効に機能するということにはならない。
活動の内容・ジャンル面の特徴	現在は、地区内の花壇作りには定評があり、常に県レベルで入賞、資金不足に悩みつつ継続。資金はなくても「やり方次第」というのが、大方の意見。 友愛訪問、高齢者ふれあい事業(市委託)、芸能発表、旅行、スポーツも活発。盛りだくさんの活動だが、「皆で楽しく」をモットーに結束しており、組織力は強いものがあり、定例会(毎月)で活動内容を決めていくという風通しのよい組織。

２．クラブの活動状況について

	現在の取り組みの評価
①社会貢献活動	花壇整備は毎年コンクール入賞のレベル。年間を通じた手入れ、諸準備、コンクール対策などが行われる。クラブ主催の道路空き缶拾い活動も実施。
②健康増進・介護予防活動	ゲートボールだけは部組織になっており、活動には力を入れている。県内の成績は上位。
③教養・文化・交流活動	年二回の親睦旅行。芸能発表会、交歓会など会員間の日常的な交流が定着。市の委託事業として友愛訪問を実施。食にかかわる健康講座への出席は 24 名と活発。

３．クラブの運営について

	現在の取り組みの評価
事業の企画立案などについて	定例会があり、運営は全員参加によって進められている。
会員の参加状況について	活動メニューが豊富。現状程度の活動が丁度良い。 円満な会運営が特徴。ゲートボールを核とした会運営が極めて円滑。
クラブの維持について	会長の地域におけるリーダーシップ、人格が、会の纏まりの根源と見ることも出来る。単に活動メニューや組織体制の整備だけではこのような活動にはなってこないと見られる。

単位クラブ聞き取り調査結果　３　（県央地域/農村部のクラブ）

会員数　42 人　実働会員数　32

１．クラブについて

①クラブの特徴

地域的な特徴	本地区は、全体として見ると水戸市境に極めて近く、人口約 960 人。旧町では、比較的人口の集積が見られる地域。小松寺や藤井川ダムなど知名度の高い施設、水戸市側の市森林公園にも近い。旧七会村からのアクセスも容易で、農村地域とはいえ利便性の高い集落の一つである。しかし住民の移動は少なく、新住民といわれる世帯はない。旧来のまとまりを残した比較的豊かな農村地帯。また、本町は、65 歳以上人口の比率は 24.7%(県平均は 19.4%)と高い。ここに来て人口は僅かに減少に転じたが、常陸大宮市、常陸太田市ほどの減少幅ではない。県内で最も人口密度が低い地域の一つ
会員構成・属性面の特徴	本クラブの活動基盤は、3 つの自治会の区域。57 戸、人口 201 人の区域。 男性会員 16 人、女性会員 26 人。うち夫婦加入は 10 組。この地域は何事もまとまりがよく、地域内の協力体制も充実。
活動の内容・ジャンル面の特徴	社会貢献活動、健康増進・寝たきり予防活動、教養文化・交流活動など、ほとんどの分野における活発な活動が継続して行われている。とりわけ、小学校と連携した伝承活動は大きなウエイトを占める。

②重点課題(ここ数年のうちに解決しておかなければいけない課題)

若干ではあるが、老人クラブに関わらないという人たちもいる。孤立を防ぐ上でも検討が必要。

２．クラブの活動状況について

	現在の取り組みの評価	目指すべき方向
①社会貢献活動	環境美化活動は活発。地域へのアピール効果も大きいが、域内の事業所からの道路清掃活動への協力報酬を得られるというメリットもある。	集落排水管理周辺の清掃活動

②健康増進・介護予防活動	スポーツや健康維持活動は活発	
③教養・文化・交流活動	旅行・食事会等の人気ある活動が会員の意向を十分に汲んで実施されている。小学校との交流事業が、学校側が行う総合学習との連携により活発に実施されている。	前向きな取り組み
④その他	町主体の寿大学へ3名参加	

３．クラブの運営について

	現在の取り組みの評価
会のステータス 会長のステータス、人望	老人クラブは認知度が高い。背景としては、会長の現役時代の社会的ステータスがある程度高いこと。また、地域の土地改良区、集落排水事業等々の役員はほぼ老人クラブの役員と重複しており、力のある人たちが老人クラブに集まっていること。 会長は地域の様々な役職を兼任。力量とリーダーシップは十分。近年太鼓保存会の顧問として、1千万円の募金を成功させ、新たな太鼓を地域のために購入するという力仕事を成し遂げる。
事業の企画立案など	会長が独断専行したり、あるいは孤立したりすることを避ける仕組みが出来ている。副会長・会計との連携がうまくできているが、これは後継者育成にも効果的。地区毎に立てた連絡員との協働により、民主的運営、会の内部の風通しの確保を図っている。
会員の参加状況について	相互の信頼醸成、声かけ、健全な競争意識の定着などにより、会員の満足度、帰属意識は高い。 会員の葬儀に全員参加することで、帰属意識、安心感の醸成を図る。生活の全領域にわたる老人クラブ活動という信頼感を勝ち取っていると見られる。
クラブの維持について	高齢者(85歳以上)の会費免除で、退会引止めを図る。 総会などには全員の出席を促進、睡眠会員化の防止、参加しやすい雰囲気の維持を図る。また相互の声かけも地域では日常的に行われている。独居老人の孤立化といった事例が増える懸念は少ない。 会員は大多数が数百m以内に居住。幹線道路による地域二分などもなく、また域内道路の高低差も少ないことで、集会参加への物理的な障壁は余りない。

４．他団体との連携や協力関係、財政について

	現在の取り組みの評価
財政、活動費の問題について	会費は低くして、運営経費の実費負担を中心にするなどの工夫を行い、加えてまとまりのある活動への参加促進を図ることで必要な経費は自分たちで用立てして運営費をまかなっていくという形になっていると見られる。ただしサテライト水戸からの清掃謝金等の収入減少が今後どのように影響するか注視。 会長など役員の率先垂範の活動、実費負担により、受益者負担の考えが浸透しているのではないかと見られる。

単位クラブ聞き取り調査結果　４　（県南地域/新興住宅地のクラブ）

会員数　53 人　実働会員数　25 人

１．クラブについて

①クラブの特徴

地域的な特徴	ニュータウンに入居した人たちによるクラブ。一部を除けば現職時は首都圏通勤が 7 割、つくばが 3 割。典型的な都市サラリーマンの住宅団地。高学歴、社会的ステータスの高いサラリーマンが多く、かつての生き方を変えられないことも多い。多様な人たちが交わって住むことの難しさが指摘できるのではないか。
会員構成・属性面の特徴	現役時代に地域に目を向けてこなかった人たちによる活動は難しく、ボランティアによる食事会(つくしんぼ会)をきっかけに入ってもらう、等々の加入の呼びかけを続けている。 ただし、会員間の交流は、温かい心を持つ会員、面倒見のよい会員により順調に進められている。
活動の内容・ジャンル面の特徴	老人クラブのあり方については、人によって、また単位クラブによって異なる考え方が存在している。

②重点課題(ここ数年のうちに解決しておかなければいけない課題)

会長職は、各役員を経験させながら、育ててきた。能力の高い人たちが多い。しかし一般住民の地域やコミュニティに対する姿勢はばらばら。このことが一般会員を獲得することが難しいという問題をもたらしている。

２．クラブの活動状況について

	現在の取り組みの評価	目指すべき方向
①社会貢献活動	毎月の遊歩道などの清掃奉仕、公共施設の整備などの事業。体力面の制約もあり、会としての取り組みは無理。地域活動に熱心な会員が地域の委員会などに属して安全対策、防犯対策活動を行う。	自分勝手な理屈で生活している人たちがスムーズな活動を阻害している地域の特性が悩み。
③教養・文化・交流活動	研修旅行は数回の実施があり盛ん。 趣味や運動の部会が定例的に開催されている。	

３．クラブの運営について

	現在の取り組みの評価	目指すべき方向
事業の企画立案などについて	第二のふるさとを形づくるための、緩やかで生活そのものが中心テーマであるクラブというはずだったが、目標実現のための会というような堅苦しさもやや出てきた。	
会員の参加状況について	定例会(毎月)での意見吸い上げなどの丁寧さがある	
クラブの維持について	役員等の地域への関心度に比べ、未会員を中心に自分中心的傾向、他への無関心は大きな課題。	多種多様な人たちが集う会にしていくことが長期的に必要

４．他団体との連携や協力関係、財政について

	現在の取り組みの評価	
財政、活動費の問題	実支出額は 50 万円程度。うち半分は行政等からの補助金	

単位クラブ聞き取り調査結果　５　（県南地域/新興住宅地のクラブ）

会員数　52 人　実働会員数　50 人

１．クラブについて

①クラブの特徴

地域的な特徴	この団地は人口 2,400 人。高度経済成長期の末期に開発された、比較的大規模な住宅団地
会員構成・属性面の特徴	S40 年代の団地開発後本クラブは発足。首都圏への通勤者がほとんどであったこと。地縁性のない人たちの集まりであったこと、が特徴
活動の内容・ジャンル面の特徴	全ての分野にわたる活動を手掛ける。地域や行政に認知される活動となっている。非会員も含めた活動となっており、地域にかなり溶け込んでいる。

②重点課題（ここ数年のうちに解決しておかなければいけない課題）

会員を相互に支える態勢作りが課題としているが、実働会員の数を見ればおおむね相互支援の態勢は整っているものと考えてもよい

２．クラブの活動状況について

	現在の取り組みの評価
①社会貢献活動	町内花壇の整備のほか、公園自体の整備にも取り組むなど活動内容は充実。地域自治体、町内会等との連携は十分に取れている
②健康増進・介護予防活動	市の出前講座による学習。健康づくりのための活動参加への呼びかけも進める。 会員の健康維持を最大の課題と捉え、外出の機会を増やす活動を進めたい考え。
③教養・文化・交流活動	行政区主催の活動参加を進め、広がりを持った交流活動が出来ている。個人宅の草取りなどによる地域内交流も出来ている。 クラブのステータスを高めようとする意識、関心を持ってもらう活動に注力

３．クラブの運営について

	現在の取り組みの評価
事業の企画立案など	役員会、総会の場での十分な活動方針の審議
会員の参加状況について	病気の人以外はほとんどが活会員。役員を始め会員は、クラブを大切にし、真摯な活動姿勢が目立つ
クラブの維持について	特に役員クラスは、人間的に練達し、その層が厚い。地域や非会員を巻き込んで引っ張っていける中核的な活動となっている

４．他団体との連携や協力関係、財政について

	現在の取り組みの評価
他団体との連携や協力	地域の諸団体、他のクラブ、行政との連携は円滑。スムーズな運営が出来ている
財政、活動費の問題について	年予算 104 万円。特に行政等からの補助は期待していない。活動によって運営費をまかなうなどの自助努力と知恵が存在している

単位クラブ聞き取り調査結果　６　（県南地域/農村部のクラブ）

会員数　53 人　実働会員数　25 人

１．クラブについて

①クラブの特徴

地域的な特徴	地域内には約 100 戸。農村地域で、昔から住んでいる人たちが大部分。また域内の人間関係も良好。老人クラブ会員の物事の捉え方も今ある問題の解析だけにとどまらず、長い時間の経過を踏まえた見方、話し方がなされている。時間、歴史という座標軸が各人のなかにおかれていると感じさせられる。
会員構成・属性面の特徴	会長は農業者。農業地帯であり、会員は働ける間、家業・農業に携わり、のちに老人クラブに入るというパターン。しかし、男性を中心に収入も期待できるシルバー人材センターに入るものもあり、交流の場がもう一つあるという状況。それぞれに異なった生活観、人生観を持っているものが集まるのではないかとも思われる。

	会員数 53 人だが実働会員数はその半分。女性のほうが多い。高齢化や様々な事情で活動に参加できなくなり自然退会(非活動会員化)、場合によっては引きこもりというコースを辿ることも。 こうしたなかで会長職、役員の職というものは、長い地域での生活や活動の中で一歩抜け出した人たちが選出されるという傾向があるように見られる。地域社会でのリーダーシップを感じさせる活動報告がなされている。
活動の内容・ジャンル面の特徴	花壇整備など老人クラブ独自の活動メニューがあり、また市の企画した芸能発表会やスポーツなどの活動に単位クラブが相乗りすることもある。しかし現在のクラブは地域の美化、コミュニティ維持のための諸活動、などへの意欲を持っており、地域の一部だけを切り取った活動という狭さは感じられない。長期的に視点から、深く広い観点からの活動の組み立てを考えられるクラブである。

②重点課題(ここ数年のうちに解決しておかなければいけない課題)

リタイアした農業者が入会することが多く、中心年代は 75--80 歳。さらに、シルバー人材センターもあることで、クラブの裾野も小さくなる。このことは会後継者の確保面ではネックにもなる。

2．クラブの活動状況について

	現在の取り組みの評価	目指すべき方向
①社会貢献活動	沿道花壇の整備にこれまでも注力、高い評価を得ている。自宅周辺の清掃整備にも地域の人々が注意を払っている。 小学校と連携した行事もある。	花壇整備などへの補助 22 年で終了。事業費確保、費用がかからない活動方法等を検討中。
②健康増進・介護予防活動	市の輪投げ大会出場を目標とするなどして、活動活発化を図る。健康広場(体操、頭の体操・・)や介護士による食事療法・指導などがなされている。	市の行事と連動するだけではなく、会独自の活動としてどう構築していくかが課題。
③教養・文化・交流活動	各種スポーツ、食事会・旅行などへの関心は高いが、会員勧誘の武器にはなりえない。会員の参加意識を高めるという程度。	農村地帯固有の地域文化をどう継承していくかが課題。
④その他	食事会(年 2 回)。旅行(一泊 1 回、日帰り 1 回)	

３．クラブの運営について

	現在の取り組みの評価	目指すべき方向
事業の企画立案など	活動企画は従来のメニューの踏襲が多い。	どうやって新たな発想を得るか
会員の参加状況	纏まりが良く会員の参加状況も良好。クラブに参加することが健康維持、生き方を広げることにつながることを気長に訴えている	
クラブの維持のために	働く(働きたい)老人をクラブに取り込むタイミングを計っていく	

４．他団体との連携や協力関係、財政について

	現在の取り組みの評価
他の団体との連携や協力	自治会とはメンバーも重なっており、連携協力が有効だ

単位クラブ聞き取り調査結果　７　（鹿行地域/農村部のクラブ）

会員数　35 人　実働会員数　35 人

１．クラブについて

①クラブの特徴

地域的な特徴	純農村地域、現在は兼業農家が多い。昔から年代別、属性別に集まる観音講、庚申さま、お茶講などがあり、互いに支えあい、自分の立場を形成していくための場が存在していた。お嫁さんなどはこういった場で地域に定着し、子どもを立派に育てることにより評価を確立していった。この地域は、人間関係の個人主義化などの影響は受けているものの、地域の変化、環境変化、などの点については都市部に比べて小さいと見られる。
会員構成・属性面の特徴	会員は農家中心。コミュニティ意識が薄れ人間関係が希薄化するなかで、クラブが高齢者の気持ちを受け止め、彼らの居場所となった。会員構成、役員の現状、活動内容などを考えれば、現状が適度の大きさである。

活動の内容・ジャンル面の特徴	ゲートボール中心だった7年前、会員が5人まで減ったものの、グランドゴルフをテコにして35人に回復させた。会員の多様性が尊重される雰囲気が生まれ、まとまりが出てきた。会費も入りやすい水準に設定。会長の尽力が目覚しかった、女性層が充実してきた、などの特徴がある。 活動の中に心を許しあったものが感じる居心地の良さ、その結果、勝負の評価だけにとどまらない、クラブに集うこと自体に対する喜びが感じられるクラブ組織となっている。

②重点課題(ここ数年のうちに解決しておかなければいけない課題)

会員の確保、会の拡大

2．クラブの活動状況について

	現在の取り組みの評価	目指すべき方向
①社会貢献活動	環境美化活動。地域の安心安全活動。	地域の諸団体との連携を強め、諸施設の支援活動を進めること。
②健康増進・介護予防活動	会の復活に効果的に機能してきたグランドゴルフが活動の中心。絞り込んだ活動なので運営や財政面の負担も軽いメリットがある。	
③教養・文化・交流活動	旅行は好評な活動の一つ。相互の友愛活動、伝承活動、趣味活動も行われる。またこの地区には集落センターがあり、人が集まりやすい場所。会のスムーズな運営に一役。	
④その他	害虫駆除剤の制作販売が定着。	

３．クラブの運営について

	現在の取り組みの評価	目指すべき方向
事業の企画立案などについて	執行部が作成して提示するが、現状の活動内容で会員の満足度は高い。定例会(隔月)などで、会員意向の把握を十分に行う。	会員間に周知を図り理解を得る工夫を続ける。
会員の参加状況について	婦人会等で活動していた有能な人たちが加わったという印象。 会員の纏まりが良く活発、という面も。会を拡大していけば必然的に多様な人たちが入ってくるのでこれまで通りの良好な運営、会の維持拡大ができるかは不明。むやみな規模拡大は考えない。	グランドゴルフなど、活動の中心を明確にして外部へのアピール、参加の呼びかけを行っていく。
クラブの維持について	心を許せる楽しい人間関係がスムーズな運営を担保している。	

４．他団体との連携や協力関係、財政について

	現在の取り組みの評価	目指すべき方向
他の団体との連携や協力について	社協・市体協との連携で事業を推進。	市内多老人クラブとの連携も強める
財政、活動費の問題について	財政は活動の結果として膨らむもの。現在の活動の充実がまず大切。	

単位クラブ聞き取り調査結果　８　（鹿行地域/農村部のクラブ）

会員数　60 人　実働会員数　30 人

１．クラブについて

①クラブの特徴

地域的な特徴	本地区は、集落成立の経緯を大切にするなどしているが、農業では生活を維持できず主たる生計維持者はサラリーマン化。ただし、最小単位の家族形態は比較的維持されており、3 世代同居がほとんど。農村社会の外見を残しながら、非農業部門の(都市)勤労者が社会生活と家族関係をつむぐ横糸となって、かつてとは異なる地域社会に変質しつつあるのが実態。
会員構成・属性面の特徴	80 戸で構成される地域だが 60 人が加入。しかし農業者中心の地域がサラリーマン中心の社会に変化する中で、いきなり定年退職者達が異なる世界にある老人クラブに入りにくいと思われる。活動内容(グランドゴルフ、ゲートボール、カラオケの 3 点セット)が限定的、活動メニューが少ないから、というだけではないと見られる。かつては 100 もの会員がいたが、ここまで減少。 職業生活リタイア後の加入を目指すが、すべての人がハッピーな状態となっているわけではないと思われ、老人クラブだけに専念できる生活状態であるとは思えない。
活動の内容・ジャンル面の特徴	新規加入が極めて少ない。定年到来者はほとんど入らない。 全員参加の月例定例会があり、活動内容を皆で話し合うなどの風通しのよさ。さらに、種目別の競技大会を行うなど、活動メニューを単に予定消化に終わらせない工夫。 老人クラブの活動は、もともと今の環境を前提条件として組み立てられるもの。その中でいかに充実した活動としていくのかの問題。行政の補助は減っているが、活動できないということではない。現実の活動は自己負担によるボランティアで構築されている。

２．クラブの活動状況について

	現在の取り組みの評価
①社会貢献活動	子どもの見守り活動などは個人レベルで広く行っているが、会の活動としてはない。
②健康増進・介護予防活動	グランドゴルフ、ゲートボール・カラオケの各部が充実し、活動の中心。シルバーリハビリ体操指導士がおりリードしている。
③教養・文化・交流活動	親睦旅行も行う。盛んなカラオケが旅行のメインであり、旅行が充実。

３．クラブの運営について

	現在の取り組みの評価	目指すべき方向
事業の企画立案などについて	定例会で活動の企画や承認をしていく。その後各活動が続いて行われる。全員参加が可能な参加意識、会の雰囲気が出来ている。	
会員の参加状況について	グランドゴルフなどの 3 点セットメニューに関心のない人は入会しにくい。また現役引退後でも、老人クラブ自体への無理解・拒否反応を示す人も少なくない。	農業者は定年がなく、拘束時間が長い。完全にリタイアするまでは、クラブに入りにくい環境にある。

４．他団体との連携や協力関係、財政について

	現在の取り組みの評価
財政、活動費の問題について	各部会の活動もその都度個人負担が原則。会の活動が財政難で停滞するということは余りない。現在の財政状態のなかで出来る活動をしているのが現状。

単位クラブ聞き取り調査結果　９　（県西地域/新興住宅地のクラブ）

会員数　86 人　実働会員数　35 人

１．クラブについて

地域的な特徴	この地区は世帯数 1,399 戸、人口 3,937 人。古河駅から数 km のところにあり、工業団地に隣接して開発された住宅団地がある。65 歳以上の人口比率は古河市全体で 17.4%程。
会員構成・属性面の特徴	今年から二つの会に分け活動している。60 歳代が中心の新しいクラブで、活発な会員獲得活動で昨年よりも 13 人増えた。
活動の内容・ジャンル面の特徴	劇団を作り施設慰問などを行う。本クラブが定年退職後地域に戻ってきたサラリーマンの活動受け皿となっているから。女性層はこれまでも地域社会に根を張っていたのだが、新たにかつての企業戦士たちが活動主体としてこのクラブを結成し、幅広い活動戦力によって構成されるクラブとなっていることが特徴。地域ニーズへ対応した活動(小学校三世代交流活動、福祉施設慰問公演等)が一つの柱とされており、活動の組み立ても明確で堅確。さらに会員の技能を把握し、活動へとうまく具現化している。地理的に見た地域の特徴とは無関係といっても良く、機能中心に組成された老人クラブと位置づけられる。

２．クラブの活動状況について

	現在の取り組みの評価	目指すべき方向
①社会貢献活動	小学校 3 世代交流ほか。区長経験者がクラブ会長になっていることで、地域のニーズ把握が十分にできている。 劇団を作ったことで、会員の結びつきや求心力が強まっている。また注目され会の知名度が上がっている。	会長が替われば、次期会長の方針でやってもらう、という風通しのよさ。会員の資質が揃っていること、活動の方向性が明示されていることから、会の継続、バトンタッチはやりやすいのではないか。
②健康増進・介護予防活動	各部会の活動を活発化させて、会員が喜んで参加できる態勢を整えるような努力をしている	ペタンクなど広く行われるようになった種目を普及させるなどしていく。

③教養・文化・交流活動		ゴミだし、植木手入れなどの、一人暮らし老人等への友愛活動を検討していく。会員の高齢化に伴う諸問題を把握し時代にあった活動としたい

３．クラブの運営について

	現在の取り組みの評価	目指すべき方向
事業の企画立案などについて	役員会で審議を尽くすが、親睦会等の場でも自由に話し合えるよう努めている	
会員の参加状況について		会員獲得活動を推進。これまで戸別訪問で会員獲得に務めてきたので実績は大きい。
クラブの維持について	現状の規模、活動内容が適度であると感じている。年会費は比較的定額だが全員から徴収、後は受益者負担の考え方でやっている。	

４．他団体との連携や協力関係、財政について

	現在の取り組みの評価	目指すべき方向
財政、活動費の問題について	ニュースポーツの用具の入手が困難というような問題。 部会への資金援助が出来ていない	

単位クラブ聞き取り調査結果　１０　（県西地域/農村部のクラブ）

会員数　75 人　実働会員数　53 人

１．クラブについて

地域的な特徴	本地区は、戦後の 5 町村合併後、町の中心部と位置づけられ、以降行政関係機関がはり付き、住宅、アパート等(都市計画の線引きにより)も建てられ本町の中心部にふさわしい地域として発展してきた。国道 125 号線が通っており、また町役場がある中心地である。本町は、65 歳以上の人口 21.3%、隣接する町の同 18.5%に比べ高い比率。
会員構成・属性面の特徴	若干の専業農家のほかは兼業農家。その他農業経営の基盤を持たない新住民もいる
活動の内容・ジャンル面の特徴	地域住民のふれあい、融和をモットーに活動 古くからの集落のしきたり、諸行事等々を老人クラブに引き継ぎ、移し替えることによって住民と会員に支持されるクラブとなっている。「集落行事・しきたりを維持し繋いでいく老人クラブ」パターン。

２．クラブの活動状況について

	現在の取り組みの評価
①社会貢献活動	小学児童防犯パトロールや地域の花壇整備など多様な活動。特徴は会員の融和や支え合いの気持ちをベースにした積極的な奉仕活動となっていること。行政区域内の花壇美化についてはコンクールで入賞したことがあるほどレベルの高い活動である。これは会員の知恵と労力を惜しみなく投入するという前向きな活動の成果であろう。
③教養・文化・交流活動、会員相互の友愛活動	弁当サービスを受けている者は、4・5 人にとどまっているが、これは大家族が多く独居老人がいまだ少ないこと、また自立している老人が多いこと等によるもの。 会員間の親交が深いことが特徴。昔の「共栄団」の名残をとどめる活発な芸能活動、婦人部の毎月の「お楽しみ会」。地域の親交、支えあいの気持ちを老人クラブが具現化していると感じさせる。 また春秋に一斉に墓地清掃。心のよりどころ・墓地の清掃までをクラブ活動範疇ということは活動の深さを感じさせ、会が地域の結びつき維持に寄与していることを物語る。 そうした人間関係の場のまとめ役、地域のリーダーに与えられる肩

	書きが「老人クラブ会長」であるように見られる。したがって、クラブ会長は地域内の人間関係を包括的に理解し、活動に反映させる調整能力とバランス感覚が求められる。社会的ステータスから滲み出る強制力で会員をまとめるとか、地域社会のニーズを活動に反映させる高度な企画力を求められる地域とは異なる会長職のあり方だ。

３．クラブの運営について

	現在の取り組みの評価
会員の参加状況	60 代では入会しないのが現状。老人クラブのイメージが悪い。

４．他団体との連携や協力関係、財政について

	現在の取り組みの評価	目指すべき方向
他の団体との連携や協力について	講師派遣などに際しての情報不足、相談機能不足	地域にもたくさんある専門的な知識を活用していく発想力とコーディネート力を提供していく必要
財政、活動費の問題について	資金不足	クラブ運営にはかなりのコストがかかることを会の内外に判らせる必要。 孫にあげる小遣いは潤沢でも、現金で会に納めるお金については三すくみになって、その必要を言い出せないでいる田舎社会の牽制力の強さがあり、こうした現状を招いているのではないか

資料 2　19 年度アンケート調査　「自由意見」の概要

加入	新規	高齢化対策と後継者の確保、育成が課題。会員勧誘を市と協力し実施。前期高齢者に絞り、地区長連合会他組織に各地区に人材の発掘、入会のための諸活動を制度化させていく。将来的には会員に対する社会的優遇策も有効ではないか。
		60 歳からの加入を勧めるが、まだ老人会に入りたくない、老人と呼ばれたくないとの意見も聞かれる。
		60 代ではなかなか入会してこない。 80 歳迄は年会費 1 人 1,000 円。イベント参加費で運営、世間並にはできていると思う。 会長になる人がいなくて困る。先行き不安であるが、皆さんの為ならと頑張る。
		60 歳位では老人と呼ばれるのがいやで入ってこない。役員になるのを嫌う。集会には 80 歳位の人は出席が鈍い。60 歳位の人は、別の会（旅行会・親睦会）などに入っており老人会に入会して頂けない。
		クラブができて 3 年です。入会者を役員が探して 54 名以下にならないようにしています。高齢者が多くなって外出できなくなってきているのが原因だとも考えています。活動内容と意識改革が大切であると思います。
		緊急の問題は会員増強です。団魂の世代等を迎えて増強のチャンス！同世代を一人でも入会していただき、その力を借りながら会員を増やしていきたい。
		会員の新規加入がほとんどない。６０歳・７０歳代でも現役で仕事をしている。一方現会員は高齢化により、活動に参加できないものが多くなってきた。
		入会が少なく、会員であっても種々の事業に参加しない会員もいる。参加が不活発で行事回数が少なくなる。
		私たちの地区は山間地にあり高齢化率 40%（65 歳以上）。だが老人会加入数は少ない。老人会活動の参加を理解してもらえるようにしている。
		新規加入者は減少、役員の就任者がいない。高齢者が多く事業に参加される方が年々少なくなっている。
		新規会員の加入率が悪い。役員の交代に難渋している。
		男性会員が増えれば一層の活性化が期待できる。一定の年齢で強制入会という方法もあり、区長、町内会長に働きかけてみようかとも考えている。また、スポーツや趣味活動に加え文化的活動も多く取り入れるようにして会員増につなげていきたい。
		入会する者が少ない。老人会を無視している方が多い。入会しなければ老人として損だというような仕組みが必要だ。かつ魅力ある老人会にしたなら我々が長生きできるような活動ができると思う。
		年々高齢者は増加の傾向だが、組織への参加はありません。

		年々新会員の入会がないため、活動が減少する恐れがあります。
		比較的若い世代の入会者がいない。会員の中にも遠慮しがちなところが目立ち、積極性がない。
	会員増加困難	60 代の会員が皆無。今後は 60 代の入会による活性化を期待。 前会長が 80 代に突入し行政を共に苦労した先輩に申し送られ軽い気持ちで引き継ぎをしたが、その労苦を心体に感じられる。受けたからには職務を全うしたいと努力中。
		老人数は増えるが会員数は増えていない。行政も PR しなくてはいけない。老人が元気で活動していれば医療費も削減できるので行政としても、もっと活動費の助成をしてもよいと思う。会長人選難で、クラブ消滅の事例も。損得を考えないで社会の為に奉仕する心が大事。
	加入時の困難	老齢化が進み、会員は減少。団塊時代が退職しているが入会者がない。男性会員は仕事を持ち行事参加困難。女性会員の事業計画参加も良くない。役員の選出もままならず、このままでは解散もやむをえない現状である。
		農村部にあり、当地域は年寄りが農業を支える。高齢になれば死亡したり病気で寝込んでいる方が多い状態。
		一度消滅した会を平成 15 年に立ち上げた。気の合った者で再出発し現在に。総会等ででた意見等を参考にして運営しています。再三に入会の勧誘をするのですが残念ながら新人が入ってくれないのが実情です。
		会員募集について行政側からの積極的な支援も必要では。
		現在会員 55 名、入会する方が少ない。地域内の信頼関係、高齢者間の信頼関係が高齢者の健康に寄与。
		高齢者は増えているのに長寿会に入会する人が少ない。入会しなくとも他の組織や活動があるからだ。
		有能な人が社会福祉協議会・女性会等に入っていく。新入会員の勧誘は思い通りに行かず、特に男性会員の勧誘は難しい。
		新人会員がなく、年々高齢化し、殆んどが女性会員。会長リーダー格の後継者が無く近いうちに解散の危機。
		高齢化社会が進む中、全国的に老人会の入会率が低下している。市レベル県レベル国レベルで真剣に取り組む時期が来ていると思います。
		新入会員の獲得ができず先行き不安。当クラブは８０歳以上の方が２３％以上で、５年先、１０年先、会員数が半分以下になるのではないか不安である。
		町内には高齢者クラブ加入対象者はいるが、他の人たちとかかわるのが面倒くさい様子。そういう人たちは地域の人たちとの交流がないままじっとくらしています。

		定年を迎えた男性には入会するほどの魅力がないらしく、男性会員が増えない。毎月たよりを発行し、地区内に配布しているが、「楽しく読んでいる」と反響はあってもなかなか入会につながらない。役員交代もままならない。
		数年来、年度初頭の入会呼びかけ、アンケートによる勧誘、回覧板による行事案内などで参加呼びかけをするが、理解されずクラブへの無関心層が多い。過去10 年間で会員減、高齢化で平均年齢 83.4 歳。細々ながらの運営。行政による啓蒙、ムード作り等の支援活動があれば幸いです。
		役員就任を嫌い入会が少ない。この先も退会者が多そうで、この会も長く続きそうにない。入会者がおらず、指導者育成ができなくて困っている。
		老人会に入会することでプライドを傷つけられると思いこんでいる人が多い。また、60 代の人は男女ともに孫の面倒をみている人が多く入会できない。
	高齢化	６０～６５歳までの入会者がなく高齢化。男性の役員になる者がいない。
		６０歳代の加入が少なく、会員が高齢化する。活動縮小が心配。また、家に閉じこもってしまう傾向があり心配。自由を束縛されることへの警戒感が強く、会の拡大が困難なことが問題。
		高齢化、病気等で退会者が増加するのが心配。加えて、60 代が入会して活動する意欲がない。また、役員になるのがいやで入会しない傾向。
		会員数５２名。うち８０歳以上が３３名（９０代は８名）。特に男性は８０台中心。最大の問題は後継役員問題。さらに会員の減少が懸念される。新年会で町内会長・市議会議員等を通じ新入会員の獲得を依頼した。
		クラブにはなかなか入ってこない。新規の加入者がいないので年齢層が高くなり、衰退。近くの団地の高齢者クラブでは 100 名以上加入しており活動も活発。見ならいたいが、現状維持で精一杯。
		新入会員が少なく、高齢化が進む。事業が困難に。加入促進策を教示願いたい。
		当クラブは高齢化が進み新規加入者が少ないのが悩み。
		年々高齢化して病に伏せる者、出席できない者が増える。後継者が不足。70 歳代になっても後継者がいず、農業から離れられない。
活動	社会情勢	男性の進出が少ないのに困っている。近隣市町村との交流をもっと深めたい。役員研修（会長・副会長あたり）を年何回かやってほしい。
		お互いに敬愛と奉仕の一念で、世から惜しまれる高齢者になりましょう。
		会員の中には、未だ家業に励んでいる者、体調をくずされている方もいる。全員参加の事業は難しい。また、老人クラブ活動も事業内容が多すぎる。
		教養、文化、交流活動については公民館が活発。クラブとしての活動よりも公民館の活動にそれぞれが参加して活動している現況である。

		人々の考え方が多様化、一方閉じこもりがちな人もいる。 高齢化で一泊旅行は困難、日帰り旅行は年 1～2 回だが参加者が減少。近くの会館でお話やカラオケ等を始めたら大変好評。 3 町が合併してできた自治会であるため 3 つの高齢者クラブを合流させる計画。公園清掃、町内会行事である夏祭り、青空展に参加、町内会より助成金を受ける。
		他と同様に、60 歳代の入会者が少なく高齢者（80 歳代以上）が活動の中心。活動範囲も限られる。60 歳～70 歳台は地域の色々な活動に参加するのが忙しく、老人会活動が困難。会員の年齢構成等を配慮しながらできる範囲の活力で運営していくのが望ましいと思います。
		車社会なので 4～5 名でドライブや宿泊をする方が増える。また、老人会の枠にしばられるのを嫌う気持ちが強い。
	評価	60 歳代の入会者がなく、一方で 70 歳台 80 歳代は病気がち。しかし人生を長期的に考えれば、老人会はなくてはならない。一人暮らしは体を老化させるし、一人の寂しさは耐えられない。それなのに老人会の役職などをやるのを嫌い、男の人は入会者がいない。
		私たちの老人会は現在よい雰囲気で、皆様協力的。クロッケー大会、輪投げ大会、カラオケ大会は活発。
		会長が女性だが、会員は協力的。週２回（輪投げ、体操と別のメンバー）の活動、総会、敬老の日、旅行、新年会等を役員が分担し、円満に活動。ただ入会者先細りが心配。老人ホームへ入居し会員が減る。会費収入は少ないが福祉バスの旅行等で満足。
		皆様仕事が忙しいなか、休みながらも活動をして下さるのでありがたいです。
		各地区の老人会はあるが実践面に弱い。老人会のリーダーの若返りを望む。
		健康増進、スポーツ、機関紙発行等について、十分にできている。更なる発展のため新しい人たちが入会されるよう努めたい。市町村合併に伴い高齢者クラブの活動範囲が広域化された。集会、会合、大会等に参加する交通手段が心配。
		高齢社会において老人クラブを正しく評価し、長寿社会の生き方充実、組織の強化、会員の増強などに取り組む必要がある
		老人会の定例会が楽しみ。毎月１回、一日中、いろいろとお話しながら、また、笑いあって輪投げなどを楽しむ。それ自体が充実している
	組織	60 歳台の加入を促進する。会内に 5 部制を作りそれぞれの部長が部内に於いて活躍している。現在実施している学校・幼稚園等の 3 世代交流及び昔の暮らし、遊びを行って親睦を深めたい。
		会長職にあるが、年齢は 86 歳。このようなアンケートには答え切れない。こうしたクラブが多いのではないか。これが老人会の実態です。

	種目	月１回、社協のバスで集まり町の集会場にて食事会実施、２０名参加。社協・行政主催のゲートボールや輪投げ大会にも参加。芝居鑑賞も個人負担で実施。若い方の入会がないので、将来が不安です。
		魅力ある活動実施が困難。参加のできない会員の対策にも苦慮。 老人の各種催し物には、交通手段の提供が不可欠。協力を願いたい。 昨年４月より役員が一新、格段のご指導を願いたい。
		会員数 60 名、ゴルフや、女性は野菜作りなどに興味。 会員数増加のため無理して入会させるので、実際にゲートボール・輪投げなどへの参加者は 20～25 人で同じメンバー。今後会員を増やすのは一苦労だが、ゲートボールでも老化・病気の防止が期待できる。
		次世代に期待される高齢者の集団でありたい。今後、高齢者だからできる生活文化・食文化等を伝える活動。会員自身が生きがいを感じながら奉仕作業をする気運をたかめる活動。健康学習などに努める。クラブ自体に魅力が欠けているが、募集の通年化でクラブ維持に励む。課題は、新会員の考え方のギャップ。古い会員の気遣い感覚の維持。クラブのリーダーの率先垂範
		ゴルフ部を創設して会員を募集したところ平成 18 年度 8 名（男性）の入会があった。今後も推進していきたい。従来の活動を見直し目先を変える必要があると思う。
		会員数の割には、参加者が少ない。いつも同じ人ばかりの参加。人集めが困難。 防犯協会結成。老人クラブも活動に寄与。市の福祉バスでの日帰り東京旅行。ひぬま荘の送迎バスも利用。これからもこの程度の活動を続ける。
		無理をせず、会員の賛同を得られる行事を重点に実施。現在週 2 回グランドゴルフを実施しています。温泉旅行は全額個人負担で年 3～4 回実施しています。
		活動内容のマンネリ化でクラブの魅力がない。会員の体力も低下気味。60 歳代の意識が低く、円滑なコミュニケーションが取れない。
		個人競技や団体競技をもっと増やしてもらいたい。
		高齢者の趣味は何と言ってもスポーツにあると思う。行政でも、もっと力をいれていただきたい。
		自慢できるものは、朝のラジオ体操。定例役員会は毎月必ず実施。月一回会費一人 100 円の茶菓子代負担のパーティー（交通安全、一般教養、他話し合いや講演会など）。
		趣味活動を自由に取り入れる活動の指導、アドバイスが必要だろう。体力の向上のための運動も大事。
		高齢者クラブ主催で町内の会員以外の住民と、親睦・健康増進・引きこもり防止のための生き生き交流会を行う。天候に左右されたりして大変。

		入会者がいず、役員のなり手もいない。会員は 80 歳以上でスポーツは駄目。カラオケにシフト。旅行は評判がいいが、一泊旅行は遠方のため 10 名以下の参加。県内や近県で２～３時間、バス送迎付きのところを紹介してくれると有難い。
		変化や魅力をもたせるために講演会講師を求めるのですが、お金がかかる。クラブ内いろいろやってみるのですが、続かない。会運営の手引きがあればよい。
		毎月の誕生会をかねた定例会も高齢者がふえて出席率が下がる。新加入者が少なく、クロッケー参加者が減り、逆にグランドゴルフ参加者が増えている。毎月開催している寿学級は出席率がいいが講師の手配に苦労。
		毎月一度、輪投げ・ゲートボールを実施しています。後継者がいないのでいつまで続けられるか。
		例会の話し合い中心で活動している。新会員の入会は難しい。目的別のグループ（カラオケ・ダンス会等）は盛んだが、高齢者クラブは難しい。地域社協との協力は強化したいがなかなか難しい。
		老人会の活動の範囲や規模がおのずから制約される。スポーツを取り入れようとしても 60 歳代ならともかく 80 歳以上の方にとっては制約があり輪投げ位のところでありグランドゴルフやゲートボールもおぼつかない。
	補助金	新規入会がなく役員候補もなく運営困難に。花壇の維持管理も 19 年度限りに。行政の助成金と強力な指導が必要だ。
		国や県、市の補助金が少ないので何をするにも各自負担、各自持参での食事会くらいしかできません。年金暮らしですのでこれから先の存続は大変だと思います。
		市の予算が少ないので事業活動が難しい。郊外にての研修会をしたいのですが困っています。食事会などボランティアの人たちにお願いして会議所にて行っています。
		財政に恵まれありがたいと思います。研修とか体育会とかになると出席率が低くなり、レクレーション事業のいわゆるお食事会、遠足会等には 90%の出席率となり、喜んで参加してくれるのでこのような行事が多くなります。年齢になっても高齢者クラブには入りたくない、行事等に参加するのが面倒で入らない。以上のような意見あり。
	困難	高齢化し、ようやくのことで会の存続のため、お互いを確かめ合うために年数回の会合を持つ程度です。新年会と日帰り温泉へ行くことが何より楽しみです。
		月例会に出席の会員が減ってきている。勧誘しても効果があがらない。また役員になる人がいない。将来非常に不安である。
		65 歳以上は 30 人くらいいますが活動に参加するのは極めて少ない。体調不良者も多い。また、70 歳代では農業第一線で働いていて忙しくて参加できないという人も多い。

		70歳以上の方で病気をかかえている方も多く活動そのものが消極的になってしまう。レクリェーションや趣味活動には関心を示して参加者も多い。
		過疎化で人口減。60代は仕事が現役。しかし高齢化してからでは間に合わない。車が自由に使える人が一人しかいず、これから後継者の方々には車を持ち、元気に会員移動を行って欲しい。交通機関が便利になればもっと魅力的なクラブ運営ができる。
		会員の高齢化がさらに進み、スポーツ、ハイキング等の活動事業は参加者が限られている。年をとってもなかなか入会せず、結局家に引きこもるケースが増えてきている。
		会員の高齢化が年々進み、現在平均年齢79歳を超えております。奉仕作業の神社清掃も中止しました。石段を登れる方が少なくなり怪我されては大変です。
		活動を行えば費用がかかる。個人負担で行えば人間関係が難しくなる。実のある活動を行うにはどうしたらよいか。今後検討していきたい。
		友愛活動で寝たきりの会員を尋ねたが、迷惑らしく庭先にて見舞い品を渡すだけでした。それで私達の老人会は友愛活動を止めることにしました。
		会員減少で、やがては解散という状況に。これからは、小学校の登下校時の機会を利用して呼び掛けていくつもり。
		町内に集会所がなく個人の家を利用するより方法がないので話し合い、苦労している。
		長寿会でも私の代で終わる様子、4～5年で解散と思う。他のクラブも同様。当長寿会では国の保全事業で10万円の助成があり、現在花壇作り、花づくりで楽しんでいる。
		毎月一回行事を設定し、出来るだけ会員相互の顔見せをするが、参加率は良くない。旅行は好評で年3回温泉地旅行を実施。
	参加	楽しい生活ができるように民主的な老人会の活動を目指していきたいと思う。
		会員の活動参加状況は約90%に近く良好。さらに魅力ある活動内容を立案し60歳台の会員の増加を図りたい。
		本クラブの問題点はリーダー不足。旅行以外への活動参加人数が少ない。
運営	イメージ	「老人クラブ」という名称はいかにも古くさく魅力に乏しい。「高齢者クラブ」とか「シニアクラブ」とか適切な名称に早急に変更すべき。
		存続に危機感を持ち懸命にPRするが、会のイメージが特に60歳台の方には受け入れられず思うようにいきません。しかし、合併で補助金もアップ。発展に努めます。
		名称に抵抗ありとして、シニアクラブと変更したが効果は如何。助成金制度が煩雑で妨げとなり、役員になり手がいない。

	老人クラブの名称に対する抵抗感あり。執行部のマンネリ化。会員の感覚の較差。合併による広域化とバス路線の廃止等による活動の阻害要因あり。
	老人クラブの名称を変更できないか。
協力度	依頼すると全員が入会し会費も納入してくれるが、行事には参加してくれない。
	加入はするが活動には１０数名のみの参加。役員の引受け手は皆無　継続困難。
	地域を考える人は減るだけ。自由奔放な社会に移行して行く様な感じだ。反省が必要だ。
	会長 2 年目、運営に苦労。人間関係が障壁。新人会員は自分の仕事でダメ、現状維持がやっと。金銭の問題もあり。 新興地域のため価値観が多様化している。60 歳代と 80 歳代の意見が分かれる。役員の後継者が難かしい。60 歳代の奉仕の精神欠如。 単位クラブの活動も過度期、誠意をもって会員をリードしていけば今後とも、活発に運営できると思う。声かけ運動を行い、入会を勧めて会員の増加を図る。 人間関係が障壁になっている。何百年前の時代の名残で今もってその差別意識が強く団結と強調を阻害している状況にある。 会員が高齢化。若い人たちの勧誘が不十分、面倒なことを嫌がる。高齢者の孤立は問題。老人会の役割はますます大きい。 老人会長になり手がいない。困難だが誰かがならなければ・・。定例会は談話や歌に踊りとたのしい。会員増加は極めて困難。行政や地域の応援なし。
情報	老人クラブと高齢者クラブは同一なものか？高齢者クラブ、老人クラブ、いきいきクラブ等の違いは?
	各単位クラブの活動状況等についてもっと詳しく知りたい。
	老連の活動立案はどんなものか、要望にどう接しているのか。一般の会員は県老連の動きが見えにくい。
	県老連の大会等の成果を知らせるように努めたらどうでしょうか。また、新会員の確保について悩みの種である。
役員	会の合言葉で心を通じあわせる。リーダーの心得はやって見せる、ほめてあげる。魅力的な活動を目指して、専門部を 10 部設置。会員募集はリーダー会員が地域の各町内会の集会時に PR。新会員 25 人となり会員数が 100 人超えました。
	組織安定には健全なリーダーを選ぶこと。よい会長が見つかれば副会長はじめ各会員はすぐに見つかる。高齢化の時代、65 歳からの年金化等で早くから入会できず、厳しい時代が来ると思われる。 会員の殆んどが 80 歳超、活動も困難。新会員も少なく会長一人で頑張っている。会長を譲る人がいないので困っている。割に行事が多く本当につらい時もある。

		現在の会長及び役員は高齢のために補助金等を町に申請する際、色々な書類を提出するので、その作成・計算が苦労しております。
		後継のリーダーがいなくて私も困りました。
		高齢者は地の塩、世の光でありたい。然し町内会長・長寿会長兼務は激務。趣味の家庭菜園、病弱な妻の援助、日々大過なく過ぎるが、将来は計り知れない。出来るところ、倒れるところまでやって行くというあきらめの気持ちも。
		次期役員が決まらず存続困難。若い人たちが老人会に対して余り魅力を感じず、むしろ、入会することが負担になっているように思います。
		会長職１３年、入会者の募集を続け、後任役員の候補者を得た。市開催の各種行事に参加し、各地区の皆さんと交流を深める。会独自の活動としては、子供とのふれあい、春・秋の研修旅行、神社周辺の掃除や、防犯パトロール等など活発。
		役員のなり手がいない。役員は大変忙しく、電話代、ガソリン代等の支出は多額。手当支給は必要ではないか。
	組織問題	名称変更し、高齢者クラブ連合会に統一しては如何。地域に受け入れられるようＰＲ・行動が必要。統一のバッジを有償でも配布して欲しい。
		実質的に会長が全部の仕事を担う。また老連の役員・町の老連の役員も兼ね、多忙を極める。田舎では 70 歳になっても農業に従事しており、加入しない。
		会長に事務的な要請を出さないようにしてほしい。会長を引き受ける人がいなくなってしまう。
		解散間近です。
		補助金申請の必要上会員数は 50 名以上としているが、実会員数は約半数。様々な無駄を生む。予算不足もあり他からの支援に期待。会員は喜んで入会し頑張っている。
		今後、会長交代時には解散も考えられる。
		6 年間会長職にある。男性の同年代会員がいず相談相手がない。「高齢者はつらつ百人委員会」で新しい情報を入手。後継者を早く育成しないと会の存続が危ぶまれます。
		一度解散したが、じきに再出発。以降退会者はほとんど無く順調に会員は増加しています。
		年々会長職の引き受け手が減る。役員をしたくない、仕事を続けている、他に娯楽の場がたくさんあるなどとして入会者が減る。
	円滑化	8 割弱が後期高齢者、夏の草取り奉仕も健康が心配。目的地までの移動も困難になる。交流するだけの老人の憩いの時間も大切、奉仕活動もよいが・・・。「老人・・・」の名前を変えてほしい。

		県老連の名称を替えられないか？県レベルでは、演芸会・講演会等会員が自由に参加できる場を企画されてはどうか。県老連からの補助金を増額できないか。
		5 年前 75 人、今は 41 人に。高齢化し活気がなくなる。役員のなり手が無い。新年会、総会、敬老の日、忘年会参加を願い、会費分を還元。お花見会や温泉旅行会は健康上の理由で参加が減る。近年は自分の趣味のクラブに入会するなどの方が多い傾向。
		いろいろな行事を実施するのにも役員が多い方が会員の集まりが良いです。５人に１人くらいの役員がいると横との連絡も早いし、まとまりも良いと思います。
		会員減が悩みの種です。魅力的なクラブづくりが大切。他クラブの成功事例等を具体的にいろいろな機会に紹介いただけたらありがたいです。
		市老連の下で動いている。市老連と老人クラブと両面からの指導の元に動くことは、年齢的にも無理に思われる。現在の平均年齢は７６．３歳。
		地域社会には信頼できる人が必ずいる。後継者が入ってくるクラブ運営を目指します。会員の健康づくりと和合、そして年齢相応な社会への貢献がクラブの大きな目的。行政の支援も限界、実態と重要性を広く社会に PR し、民間や有識者の支援と協力を要請していってはどうか。
		農作業の大半は年寄りが担う。高齢者クラブやボランティア活動等に参加せず、自分のことしか考えない風潮。女性たちが趣味のカラオケに参加する程度の活動
	会員構成	女性会員が多く人間関係が障壁なため、スムーズな運営に苦労。
		男性が少なく、女性会長を引き受けてくれるひとがいなく大変困っております。
	活動内容	仕事を引退しないので、加入が減る。またリーダー格の人も育たない。老人福祉には眼が向かないように思われ、年金受給世代は厳しさがにじむ。会員相互が交流し、感謝し合う会を考えているが後に続く世代との考え方に違いがあり今後に問題がある。
		平均年齢は 82 歳で新規加入者が少ない。イベント実施も体力面の制約で困難が伴う。「生き生きスクール」という別の高齢者集団、元気な女性を集めた「女性の会」などが共存。一つに合併できればより活発な高齢者クラブに変化できると思う。
		７０歳以上が８０％。６０代は気楽な趣味同好会の方を希望、会員獲得が困難。今後は、①茶話会の回数を増やす　②簡単なゲームを取り入れる　③健康保持のための体操をもっと普及する　④リーダーの養成を計画する、などがあげられる
		老人クラブの名称を変更すべき。土曜日はスイミングスクールで練習、健康づくりを進める。地域のみならず、市内全域の人たちが会員となっている。細かい会則や決まりごとは極力少なくし、自由に参加し、健康づくりをしている。

		社会の仕組みも著しく変わっている。クラブも変化に対応していくべき。活動もこれまでのものに加え、高齢者を意識した友愛活動・ボランティア活動・教養活動・環境美化運動等に方向転換が必要。そのためリーダーの強化、行政の協力が大切。
	運営費	高齢化で事業に支障、入会者も少ない。会員が入会者を募っている。事業拡大を計画しても財源的に苦しい。会費値上げは会員減少に繋がる、補助金の増加を
		市より補助金が年々少なくなってきている。老人クラブの会長の交代がいない。老人クラブに入ってくれる人がいない。
	高齢化	会員は高齢化、若い人の加入がない。
		会員が高齢化。活動も制限、今後の活動の中心は健康維持、介護予防活動等になってくる。高齢でも農村部では中心の働き手、入会少ない。役員後継者がいず、男性会員が入ってこないのでリーダーがいなくなる。市県全国等の連合会の行事も考える必要。更に市町村合併による補助金の削減による自主財政の確立も今後の課題である。
		会員の高齢化などで参加が困難であると思案。その様な面にも協力できなければと思いますが、なかなか難しいです。
	困難	アンケートの記入に当たって、記録や会計記録を残すべきと反省。これからはもっと整理に心がけてまいりたいと思います。
		80 歳以上で出て来るのがようやくの方ばかり。わたしも病気をしているので交代したいのですが、目のみえない方や病人・けが人が多く次の方が見つからないのが現状です。
		行事に参加する人が少なく、農村地帯で元気な人はみな働き、弱い人は出られない。研修などでは、話が粗末なことも。
		市が合併。活発に運営されていたクラブも合併後は、全域の行事は不可能に、送迎バスも廃止、参加者も激減。加入者もほとんどなく、先行き不安な状況です。
		町民から老人クラブの設立の要望があり、今年度初めて立ち上げたが、規約作り、組織作り、事業計画など地域の実態を踏まえての計画立案は大変苦労が分かった。
		超高齢化の中、当クラブも先行き不安。町内の役職にある人たちが関心を持ってくれると助かります。交代する人も少なく、精神的に疲れました。
		私も本年中に８３歳に。会計を兼務。もう一人の方が手伝ってくださいますのでなんとか続けてやっています。市老連の役員も務める。
会計	負担	会費は徴収なし。催事・親睦会毎に参加費を徴収。市からの補助金を増額して欲しい。

		会費は一人千円、夫婦は二人で千円。参加者は、花見・新年会・忘年会等の際には各自が不足金を負担することになっている。
		単位クラブからの拠出金の使い方はどうなのか。新聞の発行も 3 回～2 回に減ってしまった。
		少額の会員負担と町内からの助成金で運営。県からの助成金増額を望む。連合会として県政に要望して頂きたい。
		上級会への負担金は大変。
	予算減少	高齢者に対する福祉姿勢が後退しているように感じる。参加者などへの対応も必要、予算は必要だ。
		老人会を楽しみにしているが、予算がなく苦しい。老人をもう少し大事にしていただきたい。社会奉仕活動、公民館清掃などにはなかなか集まってくれない。

あたたか　すこやか　みんなで活かし　みんなを活かす　みんなのクラブ

茨城県老人クラブ実態調査結果分析･研究事業報告・提言書

平成 21 年 3 月

発行者：財団法人 茨城県老人クラブ連合会
〒 310-0851 水戸市千波町 1918 茨城県総合福祉会館 3F
Tel 029-243-0081
調査協力機関：茨城大学生涯学習教育研究センター